

秋田県立博物館

年 報

平成 30 年度

秋田県立博物館



はじめに

秋田県立博物館は、分館である「重要文化財・旧奈良家住宅」とともに、昭和50年5月に開館し、平成8年4月には「秋田の先覚記念室」と「菅江真澄資料センター」を開設、平成16年4月にはリニューアルオープンをし、参加体験型の展示室「わくわくたんけん室」を付加するなど、総合博物館として広く県民に親しまれてきました。

開館から43年目となりますが、これからも社会の変化や県民のニーズに応えられる、地域に貢献できる博物館を目指してまいります。今年度も「中期ビジョン2015～2019」の後期計画にもとづき、秋田の豊かな文化遺産を活かした学びをとおして、郷土への愛着と誇りを醸成し、かけがえのない「ふるさと秋田」に寄り添っていきたいと考えております。今年は特に「初めての藍染め」や「ちびっこ染め教室」など、秋田の染め織りをより多くの方々に体験していただき、博物館のファンを増やしたいと思っています。他にも多数の展示や普及事業を準備してまいります。

もとより博物館は、県民や地域社会から託された資料を大切に保存・管理しつつ、絶ゆまず人文や自然分野を探求し、未来・次世代に伝える活動を担っています。本県の生涯学習は、学びを生かした活動にチャレンジする「行動人」を目指していますが、その活動には「対話と連携」の精神がもとめられています。

「知」を伝承し、「知」に触れることの感動や学びあうことの楽しさを伝えながら、新しい価値を創造する博物館、生涯学習・学校教育の一翼を担いながら、世代に応じたセカンドスクール等の多様な機能を発揮する博物館を目指し、全館員で努力してまいります。

今後も県民文化の向上に寄与する博物館としての使命に、スタッフ一同力を合わせて取り組んでまいりますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

秋田県立博物館

館長 山田 浩 充

目次

■ 施設の概要	
I 博物館のあゆみ	4
II 施設・設備	5
III 展示室	9
IV 組織	13
V 職員	14
■ 事業の概要	
I 平成30年度博物館運営方針	16
II 平成30年度博物館事業計画	16
1 重点目標	16
2 活動計画	17
III 平成29年度事業報告	20
1 調査研究活動	20
2 資料収集管理活動	23
3 展示活動	25
4 教育普及活動	31
5 広報出版活動	34
6 学習振興活動	35
7 館外活動	38
■ 資料	
I 収蔵資料の概要	41
II 歴代館長、特別展等一覧	42
III 秋田県立博物館条例	43
IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋）	44
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）	44
V 入館者に関する資料	45

施設の概要

I 博物館のあゆみ

- 昭和42年 1月 第2次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案
12月 県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
- 47年 3月 県立博物館設立構想完成
- 49年 11月 定礎式
- 50年 3月 秋田県立博物館条例制定
5月 開館式（5日）
一般公開（10日）
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
- 7月 登録博物館となる（登録日50.7.1）
- 54年 1月 生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
- 55年 5月 秋田県博物館等連絡協議会発足
- 59年 9月 開館10周年記念式典
- 63年 9月 本館屋根防水工事完了
- 平成3年 8月 秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催
9月 分館旧奈良家住宅屋根修理着工
- 4年 11月 分館旧奈良家住宅屋根修理完成
- 5年 7月 増築工事着工
- 7年 8月 増築工事完成
- 8年 4月 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
- 9年 8月 ニューミュージアムプラン（NMP）21検討委員会設置
- 11年 4月 入館料が無料となる
- 14年 4月 ニューミュージアムプラン（NMP）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
- 15年 10月 改修建築・設備工事完成
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
- 16年 3月 展示工事完成
4月 リニューアルオープン
- 17年 12月 開館30周年記念式典
- 18年 3月 旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
- 20年 7月 クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される
- 27年 9月 開館40周年記念式典

Ⅱ 施設・設備

設置場所	秋田市金足鳩崎字後山52	(株)中田建築設備
敷地面積	14,885.9m ²	(株)ユアテック秋田支社
建築面積	6,237.93m ²	サン電気工業(株)
建築延面積	11,946.2m ²	展示製作実施設計 (株)丹青社
建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り 地上3階、塔屋2階建	展示製作委託施工 (株)乃村工藝社

【建築工事】

建築費	2,058,131千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	昭和48年7月
竣工	昭和49年11月
開館	昭和50年5月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)三晃空調 東北電気工事(株) 展示設計施工 (株)丹青社

【増築工事】

建築費	1,578,174千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	平成6年7月
完成	平成8年2月
増設開館	平成8年4月
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 三井建設(株) 設備施工 (株)ユアテック 日の出施設工業(株) (株)三和施設 日本オーチスエレベータ(株) 展示設計施工 (株)アートシステム

【NMP事業】

事業費	2,087,400千円 {総事業費(含調査事務費、 展示製作委託費)}
着工	平成14年3月
完成	平成16年3月
リニューアル開館	平成16年4月29日
工事業者	建築設計 (株)安井建築設計事務所 建築施工 (株)林工務店 (株)清水組JV 設備施工 大民施設工業(株) (株)あたとごJV

設 備

〈電気設備〉	
(1) 受電電圧	3φ6,600V 50HZ
一般照明用	450KVA (150×3)
一般動力用	550KVA (300×1) (250×1)
非常照明用	50KVA
非常動力用	150KVA
(2) 発電機設備	発電電圧 3φ6,600V 50HZ 200KVA
エンジン	ディーゼル 230KVA
(3) 蓄電池設備	108V 200AH 10HR 54セル
(4) その他幹線・動力・電灯用設備一式	
〈警戒(報)設備〉	
(1) レーダー警報設備	(展示室・収納庫) 方式、パッシブインフラレッド方式 レーダー検出 10ヶ所 ドアスイッチ 10ヶ所
(2) I・T・V監視設備	監視用カメラ 21台 (展示室14台 収蔵庫4台 1Fホール1台 外2台)
(3) 一般・非常放送設備	ロッカ型防災アンプ 容量 200W 非常時警報音 自動吹鳴式(サイレン)
〈空調換気設備〉	
(1) 冷凍機設備	(備熱水槽方式 容量780m ³) 直燃吸収式冷温水機 冷却能力 1,220KW 加熱能力 1,200KW 1基 ターボ冷凍機(夜間蓄熱運転系統) 冷却能力 312KW 1基 空冷チリングユニット(夜間運転系統) 冷却能力 132KW 1基
(2) ボイラー設備	貫流ボイラー(暖房・加湿用) 熱出力 940KW (換算蒸発量1,500kg/h)

伝熱面積 9.9m³ 2基

(3) 空気調和設備 (10系統)

冷却能力合計 897.8KW

加熱能力合計 524.6KW

(4) 換気設備一式

給気量 (7系統) 合計 25,850m³/h

排気量 (9系統) 合計 28,360m³/h

(5) 空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1) 防災設備 排煙口32ヶ所・タレ壁20ヶ所

防火戸47ヶ所

(2) 消火設備 屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓24ヶ所 屋外消火栓24ヶ所

ハロン消火設備 (収蔵庫のみ 3区画)

二酸化炭素消火設備 (収蔵庫のみ 2区画)

〈その他の設備〉

(1) 荷物用エレベータ 容量2,500kg

45m/min 1基

(2) 乗用エレベーター 積載量750kg

11人乗45m/min 2基

(3) 電話設備 局線5回線 内線49回線

(4) 衛生設備 給排水設備一式

(5) ガス設備及び避雷針設備

(6) ガス燻蒸消毒設備

建築予算

単位：千円

区分	44~46年度	47年度	48年度	49年度	計	財源内訳
計画策定費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫
建物費	-	-	591,754	760,996	1,352,750	80,000
展示・資料費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債
初度調弁・その他	-	-	3,240	35,400	38,640	1,241,000
調査事務費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	737,131

増築予算

単位：千円

区分	3~4年度	5年度	6年度	7年度	計	財源内訳
計画策定費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債
建物費	-	-	354,805	613,438	968,243	1,117,000
展示・資料費	-	1,500	141,784	310,534	453,818	
初度調弁・その他	-	-	-	11,000	11,000	一般
調査事務費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	461,174
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

NMP21事業予算

単位：千円

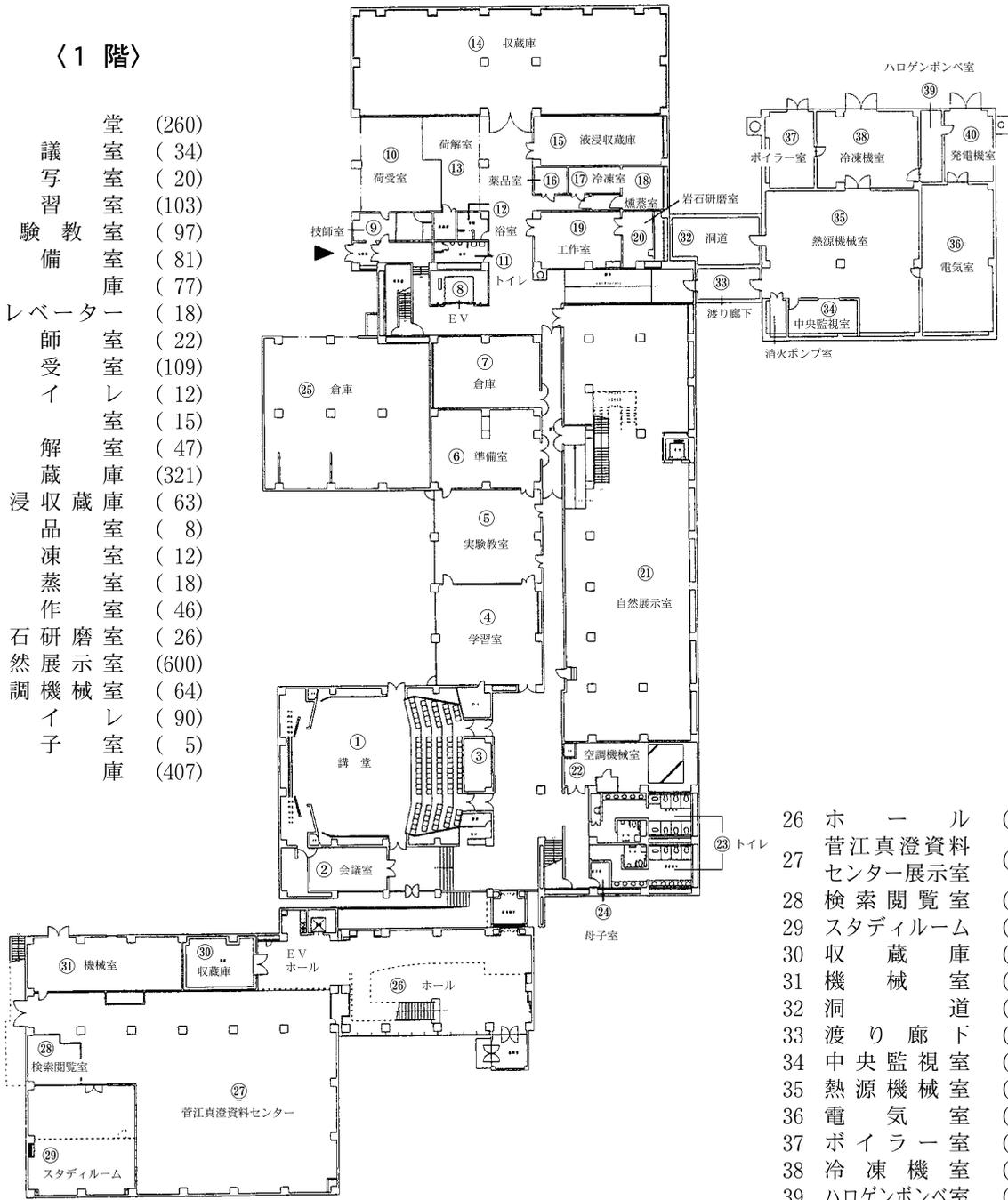
区分	11年度	13年度	継続費			小計	事業費合計	財源内訳
			13年度	14年度	15年度			
工事請負費	-	-	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債
委託費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	1,516,000
調査事務費	5,250	-	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	571,400

一各階平面図一

() 内の数字は面積 (単位m²)

<1階>

- 1 講堂 (260)
- 2 会議室 (34)
- 3 写真室 (20)
- 4 学習室 (103)
- 5 実験教室 (97)
- 6 準備室 (81)
- 7 倉庫 (77)
- 8 エレベーター (18)
- 9 技師室 (22)
- 10 荷受室 (109)
- 11 トイレ (12)
- 12 浴室 (15)
- 13 荷解室 (47)
- 14 収蔵庫 (321)
- 15 液浸収蔵庫 (63)
- 16 薬品室 (8)
- 17 冷凍室 (12)
- 18 燻蒸室 (18)
- 19 工芸室 (46)
- 20 岩石研磨室 (26)
- 21 自然展示室 (600)
- 22 空調機械室 (64)
- 23 トイレ (90)
- 24 母子室 (5)
- 25 倉庫 (407)



- 26 ホール (242)
- 27 菅江真澄資料センター展示室 (464)
- 28 検索閲覧室 (23)
- 29 スタディールーム (113)
- 30 収蔵庫 (40)
- 31 機械室 (83)
- 32 洞道 (42)
- 33 渡り廊下 (25)
- 34 中央監視室 (23)
- 35 熱源機械室 (206)
- 36 電気室 (110)
- 37 ボイラー室 (41)
- 38 冷凍機室 (73)
- 39 ハロゲンボンベ室 (16)
- 40 発電機室 (36)

部門別床面積(m²)

展示部門	3,620
研究部門	388
収蔵部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

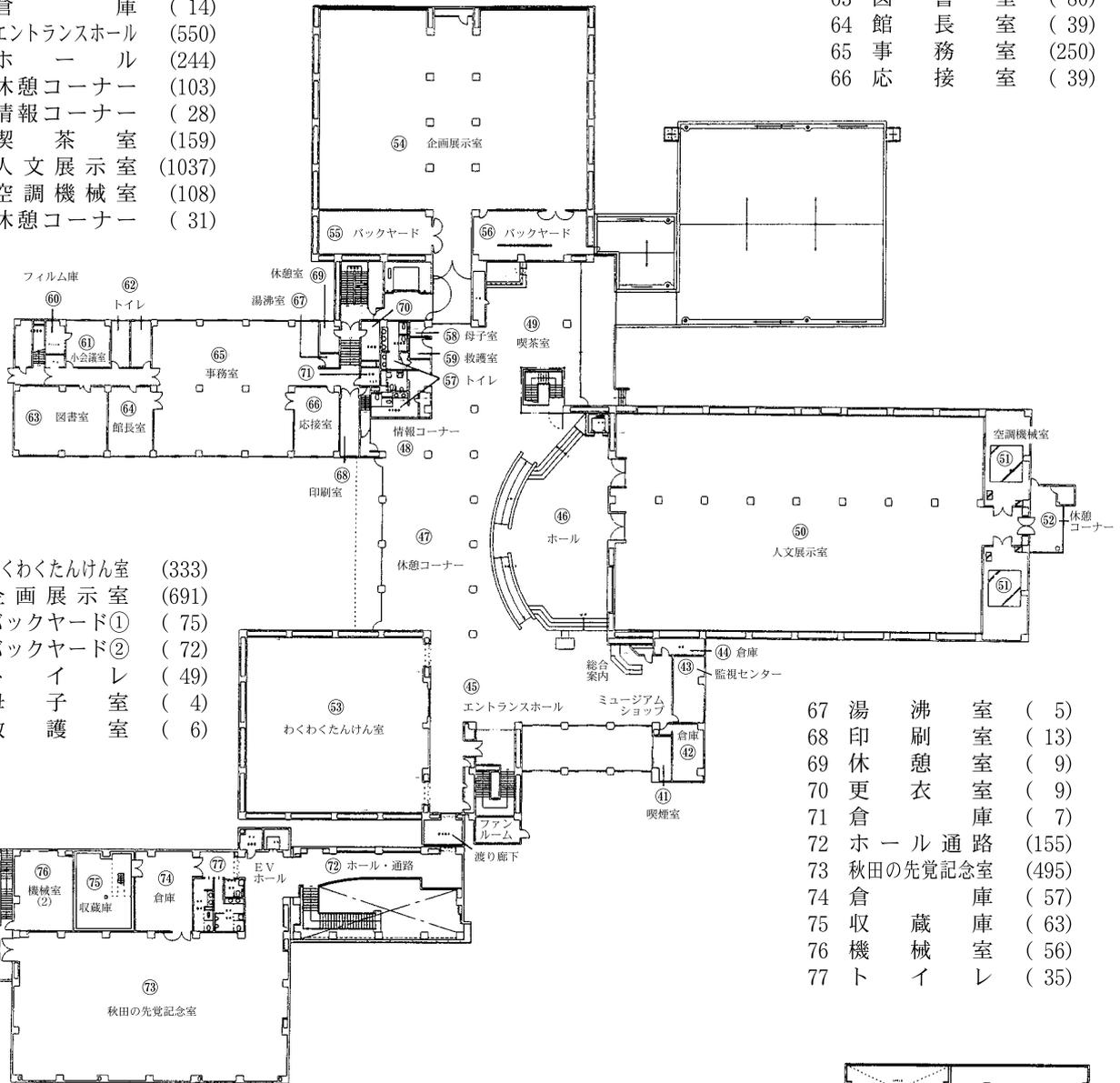
階別面積(m²)

1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2階〉

- 41 喫煙室 (8)
- 42 倉庫 (23)
- 43 監視センター (25)
- 44 倉庫 (14)
- 45 エントランスホール (550)
- 46 ホール (244)
- 47 休憩コーナー (103)
- 48 情報コーナー (28)
- 49 喫茶室 (159)
- 50 人文展示室 (1037)
- 51 空調機械室 (108)
- 52 休憩コーナー (31)

- 60 フィルム庫 (9)
- 61 小会議室 (26)
- 62 トイレ (29)
- 63 図書室 (80)
- 64 館長室 (39)
- 65 事務室 (250)
- 66 応接室 (39)



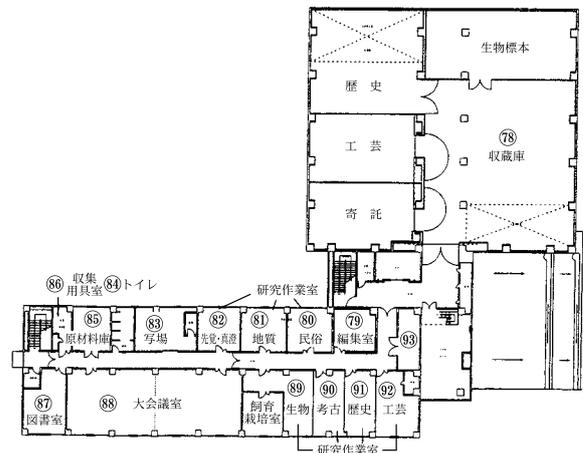
- 53 わくわくたんけん室 (333)
- 54 企画展示室 (691)
- 55 バックヤード① (75)
- 56 バックヤード② (72)
- 57 トイレ (49)
- 58 母子室 (4)
- 59 救護室 (6)

- 67 湯沸室 (5)
- 68 印刷室 (13)
- 69 休憩室 (9)
- 70 更衣室 (9)
- 71 倉庫 (7)
- 72 ホール通路 (155)
- 73 秋田の先覚記念室 (495)
- 74 倉庫 (57)
- 75 収蔵庫 (63)
- 76 機械室 (56)
- 77 トイレ (35)

〈3階〉

- 78 収蔵庫 (840)
- 79 編集室 (27)
- 80 研究作業室(民俗) (28)
- 81 " (地質) (28)
- 82 "(先覚・真澄) (27)
- 83 写場・暗室 (38)
- 84 トイレ (15)
- 85 原材料庫 (24)

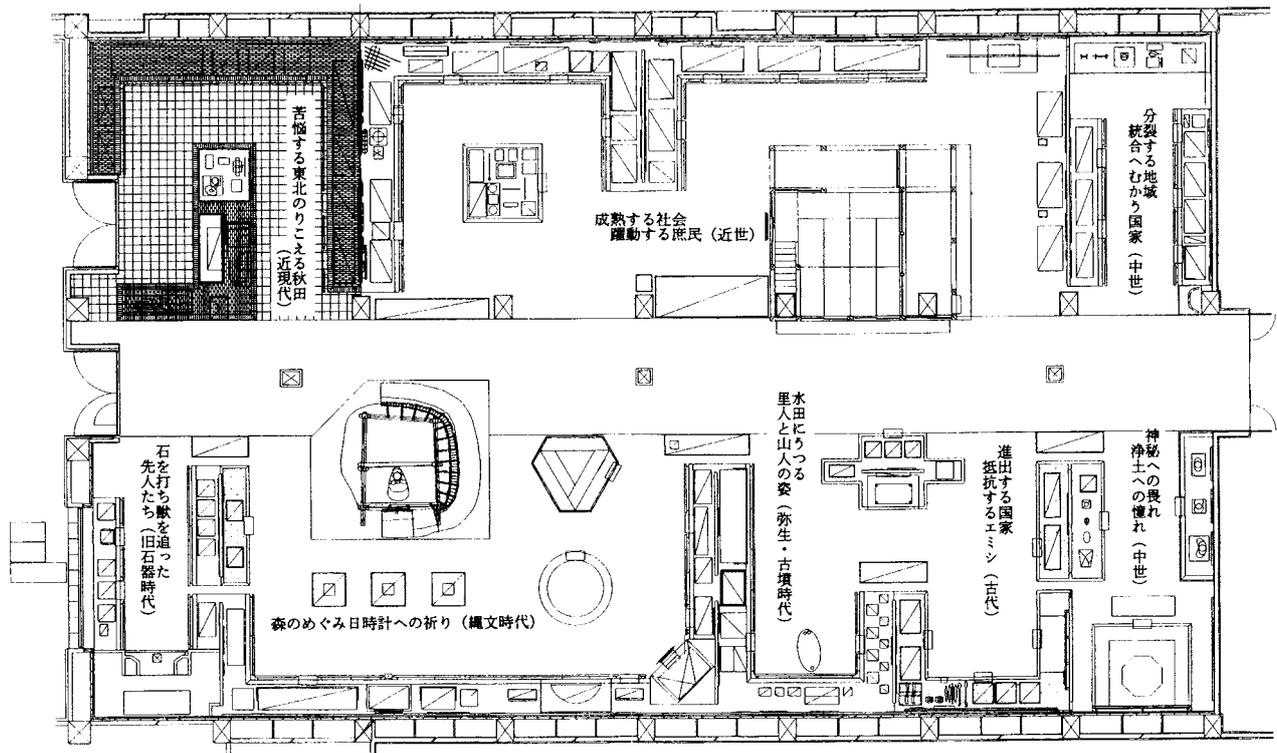
- 86 収集用具室 (10)
- 87 図書室 (34)
- 88 大会議室 (158)
- 89 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
- 90 研究作業室(考古) (27)
- 91 " (歴史) (27)
- 92 " (工芸) (39)
- 93 倉庫 (19)



Ⅲ 展 示 室

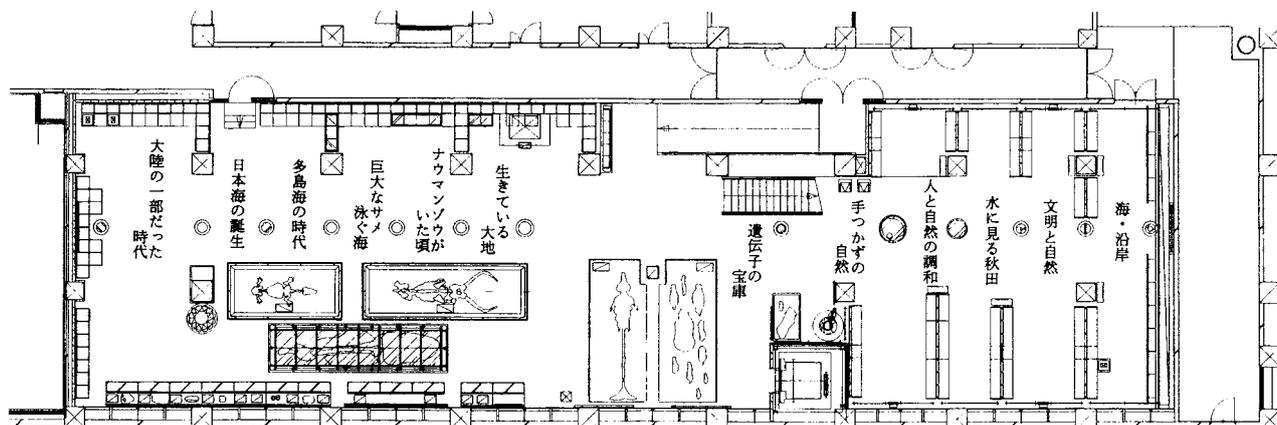
◆人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気の中で自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

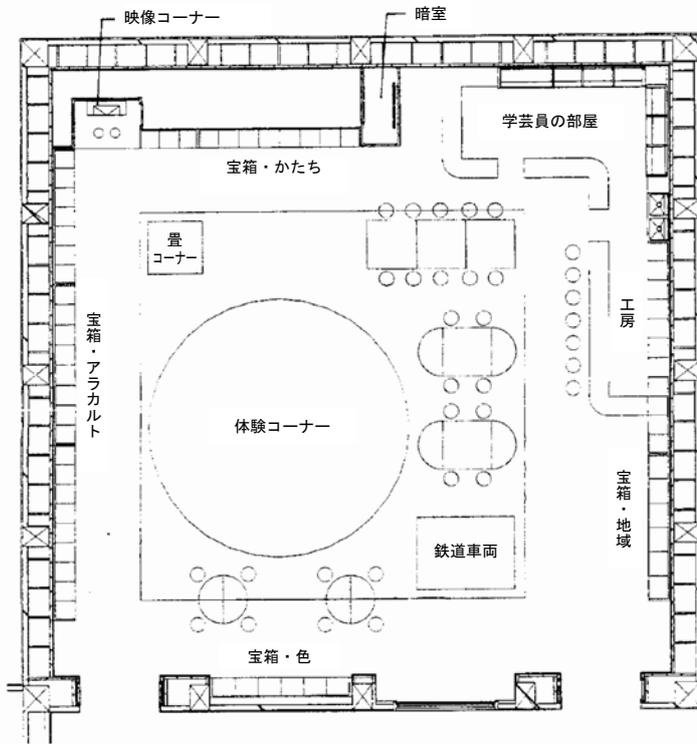


◆自然展示室

「いのちの詩」(生物)・「大地の記憶」(地質)の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力余すところなく映し出す映像資料も展示している。



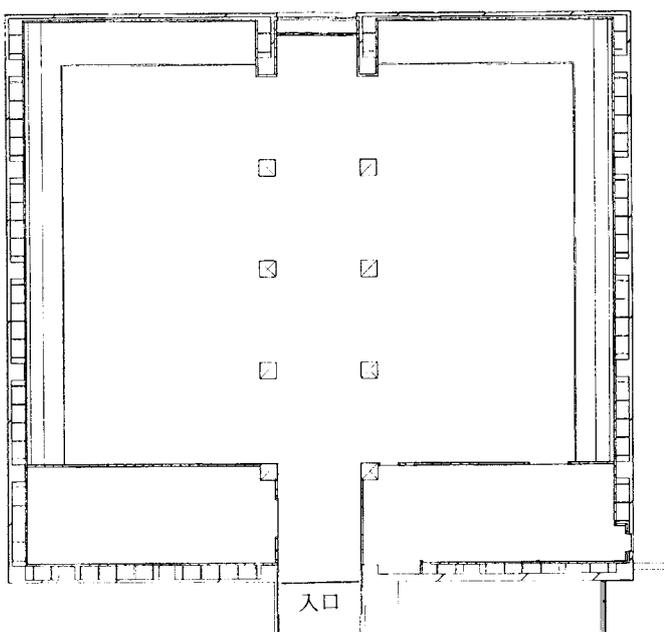
◆ わくわくたんけん室



「宝箱」に入った豊富なアイテムを使い、「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに設計した。楽しく体験活動をしながら秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。図書で調べものができる学芸員の部屋や、ビデオやDVDが見られる映像コーナーなどもある。



◆ 企画展示室



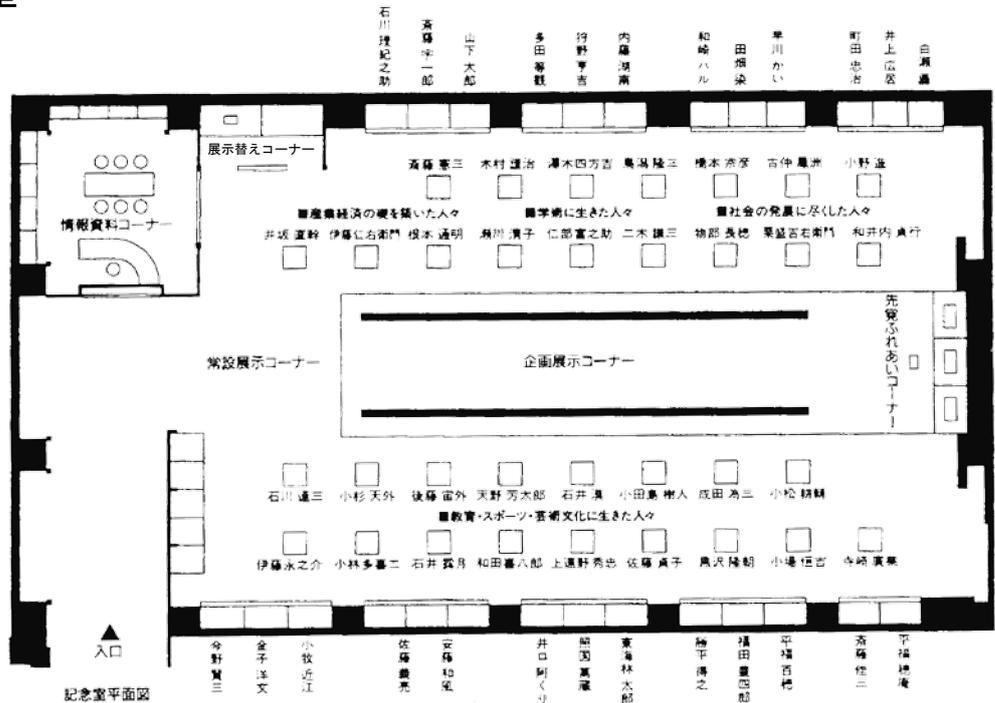
従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。



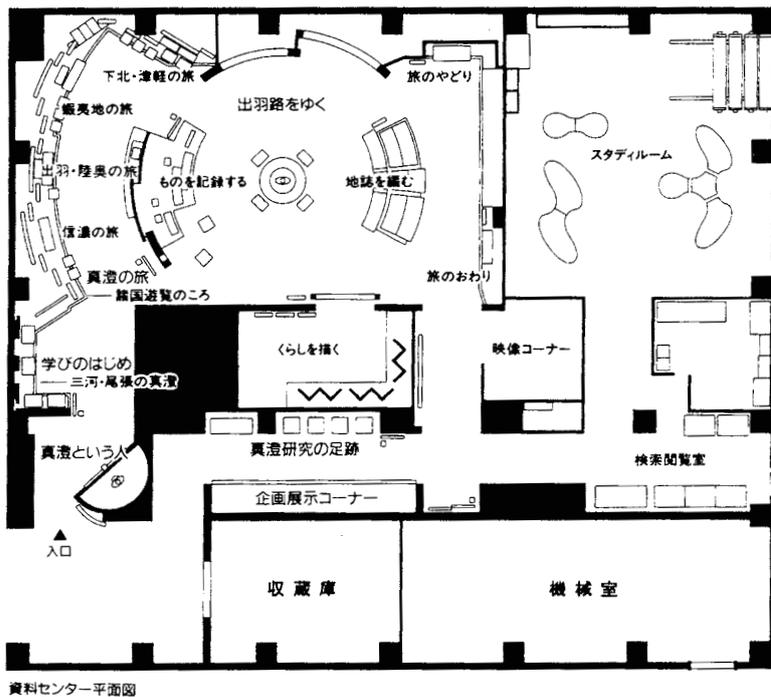
◆ 秋田の先覚記念室

近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。

パソコンなどの利用により、さまざまな情報を提供している。



◆ 菅江真澄資料センター



江戸時代の紀行家・文人菅江真澄の生涯と、彼が著した日記や図絵を展示するほか、多くの映像機器により、真澄の生きた時代などをわかりやすく展示している。

スタディールーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

◆ 分館・旧奈良家住宅

所在地 秋田市金足小泉字上前8 電話 018 (873) 5009

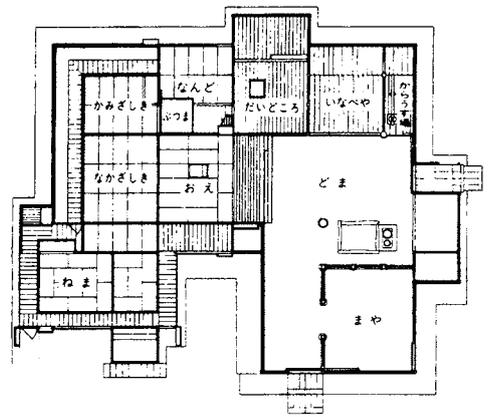
旧所有者 奈良恭三郎（昭和44年5月寄贈）

昭和40年5月29日 重要文化財（建築面積 459.08㎡）

旧奈良家住宅はJR東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から1kmの男潟北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉潟公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）9代喜兵衛が銀70貫と3年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



◆ 旧奈良家住宅附属屋

敷地内にある附属屋は平成18年3月に登録有形文化財に指定された

味噌蔵……明治7年に建造された、土蔵造の建物

座敷蔵……明治23年に建造された、土蔵造の建物

米蔵……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

明治天皇北野小休所（移築）……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

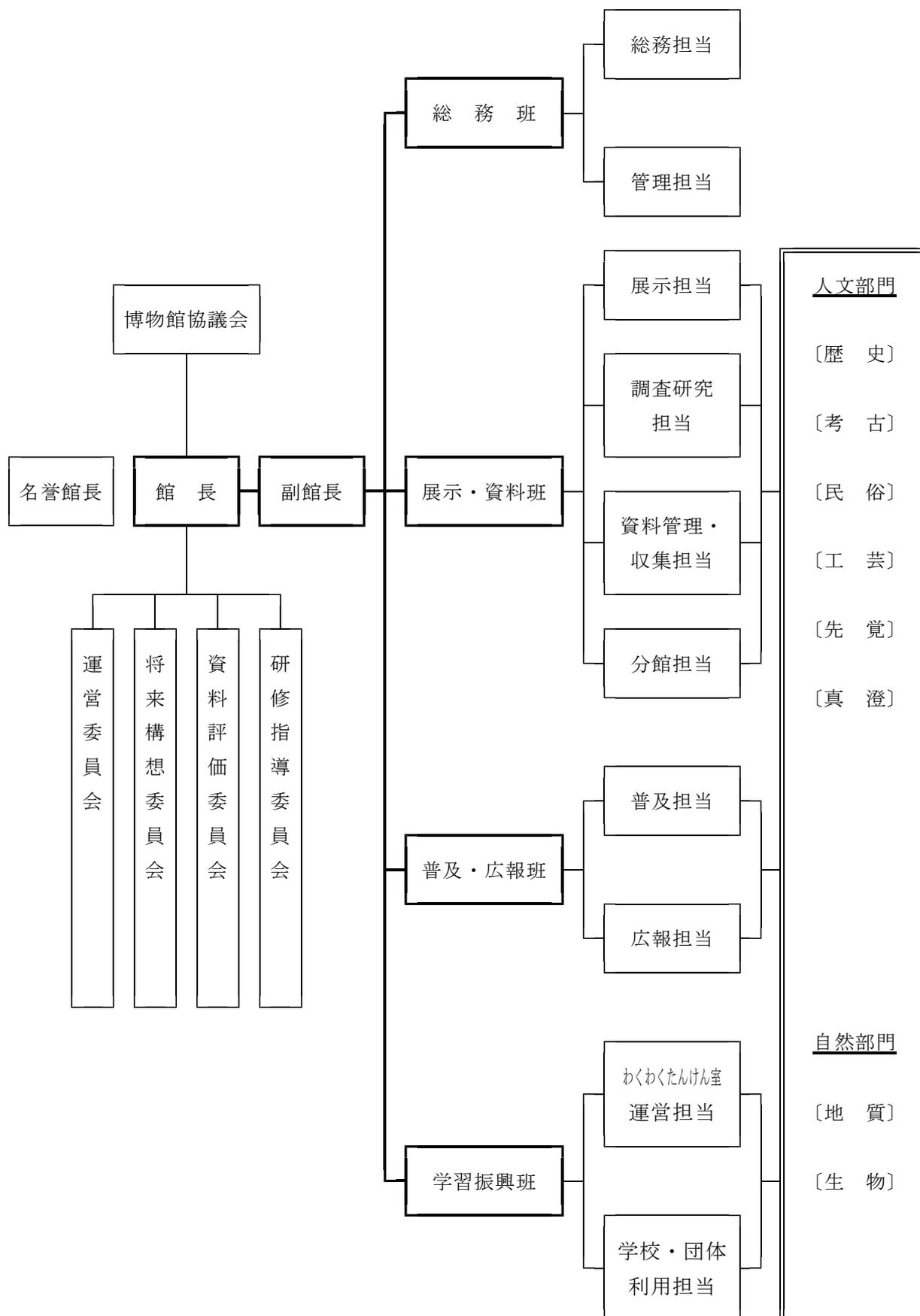
和風住宅……明治28年に建造された、木造二階建の建物

文庫蔵……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

IV 組 織



V 職 員

班名	職 名	氏 名	各班の分掌と部門担当
	館 長	山 田 浩 充	総括
	副 館 長	高 橋 正	館長の補佐
総務班	副 主 幹 (兼) 班 長	土 橋 謙 一	班の総括、危機管理に関すること
	主 査	清 水 寿 子	サービス、給与、歳入予算に関すること
	主 事	宮 腰 亮	管理、営繕、歳出予算に関すること
	技 能 主 任	武 田 光 彦	空調設備運転、施設設備管理に関すること
	技 能 主 任	佐 藤 彰 洋	公用車運転、施設設備管理に関すること
展示・資料班	主任学芸主事 (兼) 班 長	梅 津 一 史	班の総括、生物部門に関すること
	主任学芸主事	松 山 修	資料管理、展示企画、真澄部門に関すること
	学 芸 主 事	齋 藤 知佳子	調査研究、展示活動、工芸部門に関すること
	学 芸 主 事	畑 中 康 博	展示企画、資料管理、歴史部門に関すること
	主 査 (兼) 学 芸 主 事	新 堀 道 生	調査研究、展示企画、歴史部門に関すること
	主 査 (兼) 学 芸 主 事	丸 谷 仁 美	資料管理、分館、民俗部門に関すること
普及・広報班	主任学芸主事 (兼) 班 長	船 木 信 一	班の総括、生物部門に関すること
	主任学芸主事	佐 藤 隆	普及、広報、歴史部門に関すること
	副 主 幹	加 藤 竜	普及、広報、考古部門に関すること
	学 芸 主 事	山 田 徳 道	普及、広報、地質部門に関すること
	学 芸 主 事	深 浦 真 人	普及、広報、民俗部門に関すること
	学 芸 主 事	斉 藤 洋 子	普及、広報、工芸部門に関すること
学習振興班	学 芸 主 事 (兼) 班 長	池 端 広 樹	班の総括、地質部門に関すること
	副 主 幹	三 浦 たみ子	わくわくたんけん室の運営、先覚部門に関すること
	学 芸 主 事	平 田 有 宏	学校団体利用、先覚部門に関すること
	学 芸 主 事	角 崎 大	学校団体利用、真澄部門に関すること
	学 芸 主 事	安 田 ゆきこ	わくわくたんけん室の運営、考古部門に関すること

[非常勤職員]

畑 澤 俊 視 (ボイラー)
 三 浦 信 一 (同)
 黒 沢 清 直 (守 衛)
 石 黒 司 (同)
 林 信 久 (同)
 鈴 木 博 (同)
 虻 川 政 法 (工 作)

加賀谷 洋 子 (展示解説・案内)
 木 村 真 実 (同)
 小 林 純 子 (同)
 佐 藤 里 美 (同)
 舩 屋 みずほ (同)
 関 谷 百 世 (同)
 佐 藤 真 喜 子 (同)
 工 藤 奈 緒 (同)
 小 柳 瑞 恵 (同)
 小 野 千 尋 (同)

宮 本 康 男 (学 芸 補 助)
 嵯 峨 彩 子 (同)
 佐 々 木 由 衣 (同)
 山 平 弥 江 子 (同)
 大 野 幸 子 (同)

事業の概要

I 平成30年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに歩む博物館運営に一層努め、県民文化の向上に寄与する。

- 1 本県の生涯学習を支え、推進する館運営を積極的に行う。
- 2 県民のニーズに応える博物館活動の在り方を追求する。
- 3 郷土秋田の自然や文化、歴史等に親しむことができる環境整備を図る。
- 4 県内外の博物館、類似施設、諸研究機関、教育機関、ボランティア団体等との連携を図る。

II 平成30年度博物館事業計画

1 重点目標

- (1) 博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。
 - ア 県民の郷土理解・ふるさと教育に資する調査研究を計画的に推進する。
 - イ 調査研究の成果を広く一般に公開する。
- (2) 県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。
 - ア 長期的展望に立ち、計画的に資料を収集・整理する。
 - イ 収蔵及び展示資料のデジタルデータ化を推進し、効果的な活用を進める。
- (3) 驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。
 - ア 県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を実施する。
 - イ 打って出る博物館として、出張展示を積極的に実施する。
- (4) 各展示室の機能を検証し、展示室同士を有機的に結びつけ、効果的な利用を図る。
 - ア 常設展は変わらないという常識に挑戦する。
 - イ 各展示室の有機的なつながりを構築する。
- (5) 博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。
 - ア ボランティア組織等と連携して、博物館教室等普及活動の充実を図る。
 - イ 諸機関との連携講座や出前講座等を推進し、博物館活動の普及に努める。
- (6) 郷土に親しみと愛着がもてるような博物館活動の広報を行う。
 - ア 印刷物やさまざまな媒体を用いて博物館活動の様子と郷土の魅力を発信する。
 - イ より緊密なネットワークを構築し、地域と県民のために貢献する。
- (7) 博物館利用の支援や促進に努め、県民の生涯学習の充実に資する。
 - ア 体験活動の充実を図る等、親しみやすい博物館運営に努める。
 - イ 内容や広報の充実を図ることで、学校団体によるセカンドスクールの利用を促す。

2 活動計画

調査研究

◇部門研究の推進

- ・歴史 歴史資料による高校日本史の授業の研究（中世編）
松本家資料の整理と研究
守屋家資料の研究
- ・考古 縄文土器底面敷物圧痕について
- ・民俗 太平山信仰の広がりについて
- ・工芸 編組品にみる地域性の研究
秋田県の裂と文様
- ・先覚 民族音楽の研究者 黒沢隆朝
秋田の先覚者・小場恒吉の業績の再確認と展示へ向けての調査
- ・真澄 真澄、名所を謳う

アイヌの人々の生活や文化について ～菅江真澄の視点を通して～

- ・地質 秋田県男鹿半島における露頭、化石産地の調査
三脚石器の石質と地質環境
- ・生物 秋田県に生息する希少動物の生態調査
秋田県産マルハキバガ科蛾類の標本収集とリスト作成

◇共同研究、博物館学的研究の推進

- ・博物館の出前授業認知度の調査 ～県内の病弱教育の特別支援学校を対象として～
- ・生涯学習の拠点としての県立博物館の役割

資料収集管理

◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

◇資料のデータベース化の推進

◇収蔵庫管理の推進

◇燻蒸消毒作業

- ・収蔵庫
◎燻蒸期間 9月3日(月)～9月10日(月)

展示

◇展示活動

- ・企画展示室における企画展・特別展
企画展「あきたびじょんセレクションー秋田をみつける9のテーマー」
4月29日(日)～6月22日(金)
特別展「あきた大鉄道展 HE-30系」
7月14日(土)～8月26日(日)
企画展「菅江真澄、記憶のかたちー没後190年記念展ー」
9月22日(土)～11月4日(日)
アイヌ文化振興・研究推進機構巡回展「キムンカムイとアイヌ」
11月24日(土)～平成31年1月23日(水)
- ・出張展示
仙北市田沢湖図書館
横手公園展望台（横手城天守閣）
矢島郷土文化保存伝習施設
県立図書館
- ・菅江真澄資料センター企画コーナー展
「真澄とアイヌ」 7月14日(土)～8月26日(日)
「遊覧記刊行の舞台裏」
9月29日(土)～11月11日(日)

「真澄の歩いた道『すすきの出湯』」

平成30年3月16日(土)～5月12日(日)

- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
「民族音楽の研究者 黒沢隆朝」
9月29日(土)～11月25日(日)
- ・ふるさとまつり広場
天神人形 4月8日(日)～5月13日(日)
鹿島船 5月15日(火)～6月17日(日)
七夕絵どうろう 6月19日(火)～7月8日(日)
あきた大鉄道展 付帯展示
7月14日(土)～8月26日(日)
菅江真澄、記憶のかたち 付帯展示
9月22日(土)～11月4日(日)
キムンカムイとアイヌ 付帯展示
11月24日(土)～平成31年1月23日(水)
- ひな人形・押し絵 2月26日(火)～4月7日(日)
- ・ロビー展示
弘田柵跡出張展示 4月29日(日)～6月22日(金)

▶ 教育普及

◇博物館教室等

- (1) 釣り教室 5/13、5/27、6/10、7/1、9/23
(いずれも日曜日、初回のみ学習室)
- (2) 化石と地層の観察会 5/20(日)・5/27(日)
- (3) 昆虫教室～採集と標本作り～
7/22(日)・8/19(日)
- (4) 夜の昆虫観察会 7/28(土)
- (5) 昆虫同定技術入門 10/14(日)
- (6) 真澄に学ぶ教室講読会「秋田の日記を読む」
4/28、5/26、6/23、7/28
10/27、11/24、12/22、1/26、2/23
(いずれも土曜日)
- (7) 初めての藍染め
5/16(水)、6/6(水)～9(土)のうち1日
7/3(火)～6(金)のうち1日
- (8) 秋田の中世 6/2(土)、7/7(土)
- (9) 秋田の古代 7/14(土)
- (10) 土器作り教室 7/29(日)・9/2(日)
- (11) ちびっこ染め教室 7/31(火)
- (12) 生葉染め教室 8/8(水)
- (13) 三浦館・旧奈良家住宅合同見学会 9/14(金)
- (14) 樹皮で編む編組品
9/22(土)・23(日)、10/17(水)・18(木)
- (15) 菅江真澄没後190年記念シンポジウム
※生涯学習センターで実施 9/29(土)
- (16) 初めての古文書解読
10/4・10/11・10/18・10/25・11/1・11/8
(いずれも木曜日)
- (17) 古文書修復体験教室 10/13(土)・10/27(土)
- (18) 森・もりアート 10/21(日)
- (19) 秋田の先覚記念室講演会
「学校教材における『言葉と音楽の関係』をさぐ
る」 11/4(日)
- (20) ゼロからはじめるわら仕事
11/21・11/28・12/5、12/12
(いずれも水曜日、12/12は予備日)
- (21) 民俗学入門講座
2/24(日)、3/9(土)、3/23(土)
- (22) くん製教室 初級編 9/16(日)
- (23) 未来の学芸員養成講座
7/29(日)、8/5(日)両日とも2コマ

◇名誉館長館話

- (1) 「秋田の古代」
①国造制と東北 5/18(金)
②後三年合戦－清原氏の性格と合戦－ 7/13(金)
- (2) 「秋田の先覚」
③雄物川水運－東廻海運と西廻海運－ 9/14(金)
④石川理紀之助－全日本的存在の農聖－ 10/12(金)
⑤後藤宙外－宙外と三外そして文人の彼－ 11/16(金)

◇イベント事業

- (1) 「軒の山吹」再現
4月29日(日)～5月3日(木)
- (2) 「盆踊りと世界の踊りと鉄道展」 7月21日(土)
- (3) ミュージアム・コンサート 平成31年3月

◇展示付帯事業

◇館外講座

- (1) 出前講座
- (2) 出張講座
- (3) 出前授業
- (4) 連携講座
- (5) その他

◇県内外の博物館等類似施設との連携

- (1) 日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会
- (2) 秋田県博物館等連絡協議会
- (3) 秋田市内文化施設連絡会議(みるかネット)

◇博物館友の会との連携

◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携

◇各種研修・実習等の受け入れ

- (1) 博物館実務実習(大学)
- (2) 中堅教諭等資質向上研修
- (3) 教育センターと連携した研修

▶ 広報・出版

◇広報活動

- ・事業に関する広報計画の策定と実施
展示・イベント広報
配布・発送計画
- ・その他の広報活動の実施と改善
ホームページ、フェイスブックページの充実
プレスリリースの充実
広報資料、出版物等の管理
館内掲示物の管理

◇出版物の刊行・配布

- ・年報 平成30年度 A 4判 45頁 1,000部
- ・博物館ニュース No.167・168
A 4判 8頁 各2,300部

- ・秋田県立博物館研究報告 第44号
A 4判 90頁 600部
- ・広報紙「真澄」 No.36 A 4判 8頁 1,500部
- ・真澄研究 第23号 A 5判 100頁 500部
- ・(仮) 特別展「あきた大鉄道展」 展示図録
A 4判 100頁 600部
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展 展示解説資料
A 4判 8頁 1,000部
- ・展示ポスター、広報チラシ
企画展「あきたびじょんセレクション」
特別展「あきた大鉄道展」
企画展「菅江真澄、記憶のかたち」
企画展「キムンカムイとアイヌ」

▶ 学習振興

◇わくわくたんけん室の運営

- ・一般及び団体利用者への支援・指導
- ・体験アイテムの保守管理と改善
- ・消耗品の管理
- ・他の展示室との連携企画の計画と運営
- ・季節イベントや季節アイテムの計画
- ・博物館ボランティアとの連携
- ・出張わくわくたんけん室の運営
- ・新アイテムの開発

◇学校団体の利用促進

- ・セカンドスクールの利用の広報及び利用促進

- ・出前授業の広報及び利用促進
- ・学校団体利用の集計報告
- ・学校利用の分析

◇その他、教育的支援

- ・職場体験、インターンシップ、ボランティア活動の受け入れ
- ・「教員のための博物館の日」の計画と実施
- ・教員長期社会体験研修の受け入れ
- ・大学との地域連携

▶ 分館・重要文化財旧奈良家住宅

◇分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成30年4月1日（日）から平成31年3月31日（日）まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開。附属屋については内部

公開の希望に応えるために平成30年9月14日（金）に公開し学芸職員が解説を行うほか、適宜公開する機会を設ける予定である。

Ⅲ 平成29年度事業報告

1 調査研究活動

部門研究は、収蔵資料の整理・研究、特別展・企画展実施に向けた調査が主なテーマとなった。また、各部門で継続的に行っている調査もある。いくつかの研究成果は当館の研究報告などの刊行物や、特別展・企画展への反映という形で公開された。

「研究報告第43号」には、6件の論文、報告、翻刻等

が掲載された。「真澄研究」には4件の論文・報告が掲載された。

調査研究報告会は、情報共有のための館内報告会と、秋田県生涯学習センターでの一般公開の報告会という形で例年通り実施した。

部門研究

◇考古

(1) 「縄文土器底面敷物圧痕について」

土器製作時に底に敷かれた敷物の圧痕について、縄文時代を中心に調査した。対象資料は膨大にあるため、本年度は出現時期及び時期毎の傾向について、概要の把握に努めた。敷物圧痕のうち特に編組品の圧痕は、実物資料の出土事例が少ないことから補完資料として重要な位置づけができる。今後も調査を継続し、秋田県における敷物圧痕からみた編組品の時期的・地域的な動態の分析を目論んでいる。調査成果の一部は企画展「植物を編む」の展示に反映したほか、調査研究報告会などで公表した。

◇歴史

(1) 「歴史資料による高校日本史の授業の研究」

高校の日本史授業において資料学習は重要であるが、教科書掲載の資料や資料集所収の資料は、全国に関係するもののみであり、秋田県関係の資料は皆無といつてよい。身近な資料による歴史学習は秋田県内ではほとんど行われておらず、今後の研究が待たれている分野である。

例えば、戦国期県内の諸大名の動きなどは、秋田県公文書館の「秋田藩家蔵文書」や「秋田家資料」などを使うことにより、より具体的な動きを示すことができる。近世の秋田藩の動向も、同じく秋田県公文書館の「佐竹家譜」「国典類抄」などの「佐竹文庫」を使うことで、様々な諸相を描くことができる。今後、いくつかのモデルを示すことで、その後の実践を待ちたい。

(2) 「守屋家資料の研究」

昭和50年の開館以来、未整理のまま収蔵されている守屋家資料の整理を行った。整理作業は「秋田県立博物館友の会 古文書整理ボランティア」のメンバーと共にを行った。

(3) 「三又村における給人・村・郡方の関係」

当館が収蔵する茂木久栄家資料を用いて、幕末の三又村給人後藤氏の支配の実態と、給人・肝煎間の紛争に郡方がどう対処したかを検討した。郡方は給人・肝煎の対立に不介入の態度をとり、肝煎に給人と直接対話するよう要求し、給人の意向により肝煎を罷免したことなどを明らかにした。調査の成果は館内調査研究報告会で報告した。

◇民俗

(1) 「秋田県内の妖怪の記録について」

平成29年度の特別展「妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！」に向け、昨年度から引き続き県内外の妖怪に関する資料収集を行った。今年度も妖怪の記録について文献等の整理をし、展示に反映させた。また、仙北市にある画僧白雲筆の「百鬼夜行絵巻（個人蔵）」について、執筆された年代や描かれた経緯などについて調査を行ったほか、他の百鬼夜行絵巻に描かれた妖怪の配置などについて調査を行った。県内の百鬼夜行絵巻は京都大徳寺の真珠庵本系列のものであるが、妖怪の配列は真珠庵本と異なっている。百鬼夜行絵巻は室町時代から江戸時代にかけて数多く描かれた絵巻であるが、妖怪の配列まで全く同じという絵巻は少ない。白雲筆の百鬼夜行絵巻と同じ配列の百鬼夜行絵巻は完全形でないものを含めれば他に4本残されており、比較的多く普及した絵巻の系列であることが確認できた。

◇工芸

(1) 「秋田の染色今と昔」

秋田の染色について調査した。鳥海町では、江戸時代、麻を績み繊維にして自給した藍で自染していたし、横手地区・浅舞地区では、伝承によれば天保頃から絞り染めが始まり産業として発展した。明治30年頃から草藍染めは廃れていったが、昭和57年6月に絞りの技術保存

者たちが藍染技術保持者の協力によって「正藍浅舞絞保存会」が発足し現在も活動が続けられている。また、看板は下ろしているが現在で7代目という染色職人にも取材することができた。鹿角では、平成26年に栗山家の茜染め・紫根染めの技術保存、普及活動を目的とする「鹿角紫根染・茜染保存会」が発足している。平成29年度は、染色材料・染色技術・絞り技術の発展につとめた当時の人々、そして、それを後世に残そうと現在も活動を続けている人たちの思いを知ることができた。

この後は、染色文化を華やかにしてくれた染めの文様の特徴をまとめ、地域ごとの関連性について探っていきたい。

(2) 「編組品からみた地域性」

研究の対象を編組品とし、情報の不足を補うべく、4年にわたって調査を進めてきた。

平成29年度は秋田県内で産業となり発展した13地域に加え、県外の編組品についても調査した。特に米あげざるに焦点を絞り、素材ごとに技術要素に分解し、その組み合わせとして、典型的に捉え直す、という分析手法によって、編組品を地域性の中で、位置付ける試みを行なった。すると植生の多様な日本列島では、各地の自生植物を利用して、それに適した技術によって、もしくは社会的・経済的状況に応じて一部改編させながら、編組品が製作されていることが、徐々に明らかとなってきた。

今後の課題として、素材と技術の相関関係の有意性と、そこから描き出される地域性との関わりについて、より理解を深め、本県の編組品の特徴をとらえていきたい。

◇生物

(1) 「秋田県に生息する希少動物の生態調査」

森吉山に生息するクマガラは人的ストレス等が原因で存在が全く確認できなかった。キタオウシュウサンショウウオについては約10年間にわたる継続調査で、謎に包まれた繁殖生態について一定の知見を得ることができた。

(2) 「秋田県産ホソハマキモドキガ科の標本収集とリスト作成」

これまでに採集した標本について、交尾器の検鏡も行いつつ同定し、14種を見出した。これまでの県内の文献上の記録が4種だったのに対し、大幅に知見が増加した。「シロホソハマキモドキ」の呼称で知られていた不明種が県内でも採集され、精査の結果ホソハマキモドキガ科ではなくコナガ科の日本未記録種であることが明らかに

なった。

(3) 「県内の有用植物（食用利用を中心に）」

シダ植物の分布と利用の関連を、文献を収集し整理した。県内では22科216種のシダ植物の存在が確認されている。そのうち16種については食用可能という情報があるが、実際に利用しているものは6種であった。地域にある可食植物は古くから利用されていたようなものだが、必ずしも分布と利用は一致しなかった。

◇地質

(1) 「寒風山の風穴調査」

寒風山に風穴が存在することは知られているが、これまで知られている場所以外にも、風穴と思われる場所がある。その未知の風穴の調査を昨年を引き続き行った。調査は該当する場所に温室計を設置して記録をとり、もよりの気象庁の観測所のデータと比較し、温度変化を調べる方法をとった。

(2) 「秋田県の温泉と地質」

秋田県の温泉を化学的な視点から分類し、温泉の地域的な特色や各温泉の成因となる泉源地周辺の地質構造について考察する。平成29年度は、秋田と由利本荘保健所管内の温泉について分類した。併せて、県内の温泉（熱水）がつくる特有な地形について調査を進めた。

◇秋田の先覚記念室

(1) 「秋田の先人に関する資料調査」

平成29年度は、引き続き後藤宙外資料の解明にあたった。平成29年の先覚部門企画コーナー展は、秋田の先人後藤宙外の展示を実施した。当館で所蔵している資料は寄託資料がほとんどで多くは書簡類である。資料調査では、大仙市や美郷町で調査を実施した。関係資料については年代特定や由来、差出人との関係も含め、今後も継続して研究究明に努めていきたい。

(2) 「黒沢隆朝資料について」

平成29年度、黒沢隆朝の資料70数点が先覚記念室に寄贈となった。自作の童謡集「可愛い童謡」や自ら編集した「標準女子音楽教科書」などの出版物が中心だが、隆朝自筆とみられる書き込みのある資料も多数ある。10月には県内の資料調査を実施したが、すでに当館に収蔵されている関係資料や館外の資料と合わせて、さらに究明し、30年度の企画コーナー展に向けて準備したい。

◇菅江真澄資料センター

(1)「真崎文庫における藩校明德館旧蔵本について」

重要文化財「菅江真澄遊覧記」には、藩校明德館の蔵書であったことを示す「明德館図書章」印が89冊すべてに捺されている。他の明德館蔵書は明治維新で散逸したとされる。今年度、大館市立栗盛記念図書館で真澄関連の出張展示をおこなうにあたって、悉皆調査をおこなった。それにより、真崎文庫には12点30冊の明德館旧蔵本があることがわかった（大館市指定文化財「真崎文庫」2081点中一県指定文化財「菅江真澄著作」46点を除く一）。その内、『片玉集』の3冊は津村涼庵の自筆本であり、明德館旧蔵本である現宮内庁書陵部図書寮249冊の欠本5冊中の3冊であることがわかった。

(2)「菅江真澄資料センター収蔵資料の整理と展示活用について」

当センターの収蔵資料について調査・整理し、それらをいかに活用して展示を行うかを検討した。当センターの収蔵資料は全部で341点あり、大きく二つに分類される。一つは真澄自筆の資料。もう一つはその他真澄に関連した資料である。それらを活用した展示ということで、平成29年度は真澄展示室の企画コーナー合同展として主に真澄自筆の収蔵資料を活用し、①「短冊・軸装・色紙」展、②「図絵・随筆・書写本」展の二つの展示を実施した。普段は見えて頂く機会が少ない資料を多くの来館者に見て頂くことができた。

部門調査

◇共同研究

(1)「川口溪谷周辺の土壌重金属と植生の関係」

溪谷のある和賀山塊周辺は、10数年にわたって周辺全体の植物相が調べられてきた地域である。本調査は、過去の調査と比較しその変化を探るとともに、新たに土壌

調査を行い、上流の川口鉦山（銅山）と植生との関係性について考察することを目的として3年計画で開始した。今年度は、計画の2年目であり、過年度から継続して川口溪谷周辺土壌の重金属濃度を測定し、土地の傾向を考察した。

調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

標記の会を平成30年1月29日（月）に本館大会議室で開催した。報告内容は次のとおりである（報告順）。

- 1 地図・地質図の利用について 鈴木秀一
- 2 温泉（熱水）と特有の地形 築瀬圭二
- 3 県内で食用利用されるシダ植物 浅利絵里子
- 4 秋田県産ホソハマキモドキガ科蛾類の知見 梅津一史
- 5 キタオウシュウサンショウウオの繁殖生態 船木信一
- 6 秋田の染色 今と昔 齋藤知佳子
- 7 素材と技術からみた編組品の地域性 斉藤洋子
- 8 縄文土器底面敷物圧痕について 加藤 竜
- 9 菅江真澄資料センター収蔵資料の整理と展示活用について 角崎 大
- 10 黒沢隆朝資料について 平田有宏
- 11 秋田の先人・後藤宙外について 池端広樹
- 12 白雲筆 百鬼夜行図について 丸谷仁美
- 13 国鉄の動力近代化と自治体～生保内線ディーゼルカー導入問題を中心として～ 畑中康博

- 14 歴史資料による高校日本史の授業の研究（その1） 佐藤 隆
- 15 三又村肝煎罷免事件にみる給人・郡方・村の関係 新堀道生
- 16 真崎文庫における藩校明德館旧蔵本について 松山 修

◇調査研究報告会（公開報告会）

標記の会を平成30年3月17日（土）に生涯学習センター3階講堂で開催した。報告内容は次のとおりである（報告順）。一般参加者数は36名であった。

- 1 秋田県産ホソハマキモドキガ科蛾類の知見 梅津一史
- 2 縄文土器底面敷物圧痕について 加藤 竜
- 3 キタオウシュウサンショウウオの繁殖生態 船木信一
- 4 秋田の先人・後藤宙外について 池端広樹
- 5 白雲筆 百鬼夜行図について 丸谷仁美
- 6 真崎文庫における藩校明德館旧蔵本について 松山 修

研究報告等の発行

◇『研究報告』第43号

キタオウシュウサンショウウオの繁殖生態
船木信一
秋田県男鹿半島の中部更新統協本層から発見されたスケトウダラ *Theragra chalcogramma* の耳石
大江文雄・渡部晟
鎧田遺跡出土木製遺物の年代と予察－2017年度調査の概要報告－
加藤 竜 他
秋田県戸平川遺跡出土編組製品の素材植物と技法
斉藤洋子 他
名誉館長館話実施報告抄
新野直吉

[翻刻] 茂木久栄家資料「日記帳」(慶応元年)

新堀道生 他

◇『真澄研究』第22号

出羽庄内の信仰風土
春山 進
講演記録 菅江真澄と内田ハチ一科学・教育・図絵－
石井正己
白井秀超手沢本『榊葉日記』の紹介
羽柴亜弥・嵯峨彩子
大館市指定文化財〈真崎文庫〉における真澄自筆料
松山 修

2 資料収集管理活動

平成29年度中に寄付等で新たに登録された資料は31件10,519点であった。昨年度に続いて生物標本のまとまったコレクションの寄付があり、2年続いて1万点前後の点数となった。大口の寄付申込みは今後増えていくものと予想されるが、収蔵スペース不足のためお断りする場合も出てきている。収蔵スペース不足の問題は、直接管理している各部門担当任せでなく、博物館全体としての

検討に向けて動いている。

館内での文化財害虫の発生が引き続き散見されるほか、展示室の温湿度の変動が時期によって大きくなる場合があるなど、環境管理上の課題も少なくない。その都度対応を行っているが、日常的なモニタリングを密にするよう努めたい。

資料収集・整理・保存・管理

◇平成29年度収集資料一覧

部門	資料名	数量	受入区分
工芸	刀	1	寄付
歴史	日章旗、たすき	2	寄付
	秋田市路面電車 写真画像 84枚	1	寄付
	秋田市路面電車 写真画像 43枚	1	寄付
	小西竹治郎家資料	71	寄付
	鉱山資料等	85	寄付
	子ども用半纏ほか(衣類・什器類)	15	寄付
考古	土偶	2	寄付
民俗	蚊帳	1	寄付
	蓄音機、レコード、ろう管レコード	16	寄付
	押絵	25	寄付
	蚊帳	1	寄付
	ざる	3	寄付
	ひな道具	1	寄付
	レジスター 他	24	寄付
	機械編み機 他	13	寄付
	角樽 他	9	寄付
	押し絵	42	寄付
	小計(件数)	313	(18)

部門	資料名	数量	受入区分
生物	イワナとブラウントラウトの交雑種	1	寄付
	オオムラサキ	1	寄付
	カシワアカシジミ、ハヤシミドリシジミ	2	寄付
	維管束植物標本	372	寄付
	シヤクガ科蛾類標本	8,992	寄付
	蛾類標本	757	寄付
地質	サンゴ化石(深海サンゴ)	1	寄付
	鱈状珪石	1	寄付
先覚	スケトウダラの耳石の化石	1	寄付
	多田等観書	1	寄付
	黒沢隆朝資料	74	寄付
	Passauer Poesie(パッサウ詩情)	2	寄付
	石川理紀之助短冊	1	寄付
	小計(件数)	10,206	(13)
	合計(件数)	10,519	(31)

◇平成29年度資料収集状況

平成30年3月末日現在の資料総数（ ）は平成29年度分

	購入	寄付	委託製作	所管換え	採集	その他	合計
総集	2,917	137	626	18	0	0	3,698 (0)
美術	415	25	2	8	0	0	450 (0)
工芸	7,371	6,327 (1)	1	13	0	0	13,712 (1)
歴史	5,125	3,262 (175)	113	184	0	73	8,757 (175)
考古	245	2,174 (2)	31	190	0	0	2,640 (2)
民俗	2,280	7,743 (135)	120	36	4	0	10,183 (135)
生物	17,345	94,209 (10,125)	7,728	36	1,654	0	120,972 (10,125)
地質	3,556	2,874 (3)	1,408	18	9,148	0	17,004 (3)
先覚	131	5,104 (78)	12	0	0	2	5,249 (78)
真澄	143	1,756	11	300	0	0	2,210 (0)
合計	39,528 (0)	123,611 (10,519)	10,052 (0)	803 (0)	10,806 (0)	75 (0)	184,875 (10,519)

◇平成29年度資料特別利用状況

目的別

利用者	県内外別			目的別							
	県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他	
博物館	都道府県立	0	2	2	0	0	0	0	2	0	0
	市町村立	0	4	4	1	0	0	0	2	0	0
	その他	1	0	1	1	0	1	0	3	0	0
企業	出版	13	37	50	45	0	5	0	0	0	0
	映像	7	10	17	1	16	0	0	0	0	0
	T V	1	1	2	0	2	0	0	0	0	0
	その他	8	4	12	2	0	4	0	4	1	1
教育機関	大学	0	3	3	0	0	0	0	1	3	0
	その他	1	1	2	0	0	0	0	1	1	0
都道府県	1	3	4	0	0	2	2	0	0	0	0
市町村	15	6	21	1	2	4	3	10	1	0	0
個人	22	8	30	10	3	2	0	1	11	0	0
計	69	79	148	61	23	18	5	24	17	1	0

データベース化の推進

5年間継続してきた「デジタルアーカイブ&アプリケーション開発事業」のコンテンツ追加が昨年度で終了した。この事業ではコンテンツの提供に焦点が当てられ、その基になる収蔵資料に関するデータのデジタル化

◇平成29年度館蔵資料貸出状況

目的別

貸出先	県内外別			目的別				
	県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博物館等	3	4	7	7				7
教育機関	大学	1		1		1		1
	高等学校							
	中学校							
	小学校	1		1			1	1
その他	1		1	1				1
研究所・文化団体								
出版報道機関								
都道府県								
市町村	2		2	2				2
個人	1	1	2	1	1			2
その他								
計	9	5	14	11	2	1		14

部門別

部門	利用数	利用内容					
		写真撮影	写真掲載	画像等貸与	映像録画	館内閲覧	その他
工芸	1	0	1	0	0	0	1
考古	14	8	7	2	0	6	0
歴史	42	4	34	5	6	0	19
民俗	18	2	14	8	3	0	3
生物	1	0	1	0	0	0	0
地質	3	1	2	1	0	1	0
先覚	15	3	10	7	0	2	1
真澄	51	1	43	39	3	1	10
その他	4	0	2	1	1	0	2
計	149	19	114	63	13	10	36

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。
※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者の合計とが異なっている。

燻蒸消毒および虫・害菌管理

燻蒸消毒は平成29年9月4日（月）～9月11日（月）に、酸化プロピレン製剤（商品名アルプ）を使用し、3階収蔵庫のうち生物・民俗収蔵庫と真澄センター収蔵

庫を燻蒸した。小型燻蒸機は酸化エチレン製剤により、寄贈・借用資料の搬入時に使用した。29年度の稼働回数は28回であった。

3 展示活動

平成29年度の特別展「妖怪博覧会」には予想以上に多くの来館者があり、関心の高さがうかがわれた。関連イベントのバスツアーやナイトミュージアムも好評であった。

菅江真澄資料センターの企画コーナーでは、例年通りの3つの企画展示に加えて、新たな試みとして寄託資料である菅江真澄白筆本（重要文化財）の特別公開を2回

行った。

規模の大小によらず展示の企画は学芸職員個々人の力に頼っている部分が大きく、職員の異動などにより、数年先までの計画が毎年変更を余儀なくされているのが現状である。今後数年のうちにベテラン職員の退職が相次ぐこともあり、展示の企画と実行の体勢を再検討する必要に迫られている。

企画展ほか

◇企画展「足もとの久保田城下―掘り出された武家の暮らし―」平成29年4月26日(水)～6月25日(日)

<展示概要>

現在の秋田市中心街区に江戸時代の風情が残っていないように見えるが、その町割りは城下町の構造を踏襲したものである。また、近年の中心街区における開発は、江戸時代の遺跡発掘に大きな進展をもたらしている。本展では考古学・歴史学の調査成果を合わせて紹介し、久保田城下における江戸時代の暮らしの復元を試みた。

<展示構成>

①城下の誕生

「久保田城下絵図」を中心に、城下町の誕生とその構造を解説。

②掘り出された武家の暮らし

東根小屋町遺跡・古川堀反町遺跡・久保田城跡・藩校明德館跡出土品から、生活に密着した遺物の数々を紹介。



③うごめく人

「秋田風俗絵巻」から、城下町に住んだ様々な人々の個性あふれる姿を紹介。

④消えゆく痕跡

古写真・古地図から、秋田中心街区に久保田城下の痕跡を追跡。

<付帯事業>

①展示解説（4月23日、5月7日・21日、6月18日）

②ブラ★くぼた～絵地図片手に御城下散策～（5月6日）

初代藩主佐竹義宣の取り組んだ都市計画の解説を交えつつ、絵地図を見ながら旧久保田城下を案内。見慣れた街中の地形や町割りに城下の名残を探る散策は、参加者に大変好評であった。



担当：加藤 竜（考古）
新堀道生（歴史）

◇特別展「妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！～」平成29年7月15日(土)～8月27日(日)

<展示概要>

妖怪とは何かを考える時に、未知なるものに対して畏怖や憧憬の気持ちを抱いてきた人々が、それを克服する

ために具現化していった姿ではないかとする考え方がある。妖怪の姿は次第に擬人化され、次第に地域や時代によって特徴的な妖怪が生み出されるようになった。

本展では、国立歴史民俗博物館の協力を得て、約200点の県内外の妖怪に関する絵巻や冊子などを紹介し、秋田県の妖怪について整理をした。

<展示構成>

- 第一章 異界への恐れ
- 第二章 姿をあらわした妖怪
- 第三章 神と異形のモノ
- 第四章 秋田ゆかりの妖怪
- 第五章 身近になった妖怪

<付帯事業>

- (1) 盆踊りとバリ舞踊と怪談と妖怪展 7月15日
- (2) 講演会
 - ①演題：「異界への想像力～妖怪や幽霊となった人・もの・動物～」
講師：山田慎也氏（国立歴史民俗博物館民俗研究系准教授） 8月5日
 - ②演題：「妖怪と風聞」
講師：常光徹氏（国立歴史民俗博物館名誉教授）
8月27日
- (3) バスツアー「男鹿半島 オニと伝説をめぐるツアー」 8月19日
- (4) ナイトミュージアム「懐中電灯で妖怪展を見よう！」 7月29日、8月5日、8月19日
- (5) 展示解説
7月16日、8月27日をのぞく毎週日曜日



担当：丸谷仁美（民俗）

◇企画展「鳥海山の自然史」 平成29年9月23日(土)～11月12日(日)

<展示概要>

秋田県と山形県にまたがる鳥海山は、その出で立ちから出羽富士とも呼ばれ、また、秋田県民歌に「秀麗無比なる鳥海山よ」と歌われているように、秋田を代表するものの一つに挙げられる。しかし、鳥海山は気象庁が常時観測を行う活火山の一つであり、何度も噴火を繰り返し、その活動により現在の鳥海山とその周辺の地形、自然環境が形成されてきた。その豊かな自然環境は国立公園として整備され、2016年には「日本海と大地がつくる水と命の循環」をテーマとした「鳥海山・飛鳥ジオパーク」としての認定もされている。

<展示構成>

1 火山

鳥海山の形成史、有史以来の火山活動、1974年の噴火、秋田の活火山、火山防災、岩なだれと埋もれ木、象潟地震

2 水の恵み

湧水の起源、湧水群、滝、海岸湧水、イワガキ

3 鳥海山の生き物

鳥海山のイヌワシ、イヌワシの生態、保護の取り



組み（大森山動物園、猛禽類保護センター）、鳥海山で見られる鳥類、冬師湿原の昆虫、鳥海山で見られる植物

獅子ヶ鼻湿原、鳥海マリモ

4 ジオパーク

ジオパーク・各ジオサイトの紹介

<付帯事業>

・展示解説

10月1日、10月15日、10月29日、11月12日

担当：鈴木秀一（地質）

◇企画展「植物を編む—暮らしの中の編組—」 平成29年12月2日(土)～平成30年4月8日(日)

<展示概要>

編組品とは樹皮や草などの植物を編んで作ったものことで、かつてはザルやカゴなど運搬、収穫、炊事の道具として生活必需品であった。その起源は縄文時代にまで遡ることができる。しかし昭和30年代以降、プラスチック製品の普及とともに編組品はその姿を消しつつある。そこで本県における編組品について、素材と技術に重点を置き調査した。本展示はその4年間における研究の成果を発表したものである。県内の編組品が産業となり発展した13地域について取り上げ、また県外の10地域からも資料を借用し、全国の編組品が一堂に会し編組品に触れる機会となった。展示室ではじっくり展示品を観覧する姿が目立ち、県民が編組品に親しむ好機会となった。特に全国の米あげザルに焦点を絞った素材と技術の関連性について取り上げたコーナーでは、植生による植物の違いによって違う編み方が選択されていること、秋田の最大の特徴が「グミ編み」という編み方であることに来館者は驚いた様子だった。また、会期中は講演会やワークショップ、実演などの付帯事業を多く企画し、好評を得た。

<展示構成>

第1章：植物から生まれる編組品

第2章：あきたの編組品

第3章：素材となる植物 形づくる技術

第4章：編組品からみた地域の特徴

第5章：つながる手仕事

<付帯事業>

(1) 講演会「縄文時代から続く植物利用—暮らしの中の編組—」

講師：佐々木由香氏（明治大学黒耀石研究センター／パレオ・ラボ） 12月16日

(2) ワークショップ

①「古に学ぶ—縄文時代の編組技術—」

講師：本間一恵氏（バスケットリー作家） 12月16日

②「金足浦山の竹細工から学ぶ」

講師：浦山竹葉会

1月21日

(3) 講義&ワークショップ

①「ヤマブドウのつるで編む」

担当：斉藤洋子

2月11日

②「オニグルミの樹皮で編む」

担当：斉藤洋子

2月25日

(4) 展示解説

12月2日・10日、1月14日・27日

2月3日・17日、3月4日・24日



担当：斉藤洋子（工芸）

◇菅江真澄資料センター 企画コーナー展

〔自筆本、春の特別公開〕秋田の旅14冊

平成29年5月23日(火)～6月11日(日)

菅江真澄による著作の中心資料となっている重要文化財「菅江真澄遊覧記」89冊は、かつて藩校明德館に納められたもので構成されており、これまで、秋田の歴史や文化を知り、また、他地域を知る書物として読み続けられてきた。その一方で、遊覧記の特色の一つである彩色された図絵は、なかなか見ることができないのが現状である。同資料が当館の寄託資料になっていることから、所蔵者の御理解を得て、年次計画を立てて公開することにしたものである。公開は3週間とし、1週間ごとに開帖部分を替えて紹介した。

〔展示資料〕男鹿の秋風、みかべのよろい、かすむ月星、おがらの滝、ひなの遊び、氷魚の村君、男鹿の秋風、男鹿の鈴風、男鹿の島風、男鹿の寒風、軒の山吹、勝手の雄弓、月のおろちね、阿仁の沢水

〔第73回企画コーナー展〕高橋友鳳子旧蔵コレクションと真澄 平成29年7月15日(土)～8月27日(日)

横手市増田生涯学習センターには、増田町教育長などを務め、俳人としても知られた高橋友蔵(俳号：友鳳子、1899～1996)の旧蔵コレクション約6,700点がある。コレクションには俳句や短歌に関する資料が多く、稀覯本も少なくない。その他、蔵書票や豆本類もこのコレクションを特色づける資料となっている。コレクションの中から真澄に関連する資料を紹介した。

〔展示構成〕1. 真澄がつくった発句 2. 真澄の記録にまつわる俳諧書 3. 秋田の俳諧史を彩る書物 4.

真澄と周辺人物の短冊(菅江真澄、高階貞房、進藤俊武、吉川忠行、吉川五明、国谷金馬) 5. コレクションの中の軍記物 6. 真澄研究史上の人物と図書・資料(内田武志、石川理紀之助、深澤多市、柳田国男)

〔自筆本、秋の特別公開〕雪の出羽路平鹿郡14冊

平成29年9月20日(火)～10月9日(日)

春の特別公開と同様の趣旨で、真澄による本格的な地誌の最初となった《雪の出羽路平鹿郡》全14巻を紹介した。公開は3週間とし、1週間ごとに開帖部分を替えた。

〔第74回企画コーナー展〕雑纂資料の魅力

平成29年10月14日(土)～12月10日(日)

菅江真澄には、下書きや覚え書き(メモ)、未完成の文章などを綴じ合わせた書冊があり、『菅江真澄全集』では、これらを「雑纂」と分類している。雑纂資料は、まとまった記述ではないため、現代語訳を施されることもなく、ふだんは注目されることがない。一方で、雑纂資料には、そこにだけしか書かれていない文章があるなど多くの魅力が潜んでいる。展示では、大館市立栗盛記念図書館が蔵する10点の資料を中心に取り上げ、雑纂に分類される資料の魅力を紹介した。

〔展示資料〕風の落葉一、風の落葉三、風の落葉四、椎の葉、高志葉、混雑当座右日鈔、都由野塵束、風野塵泥、筆のしがらみ、陸奥国毛布郡一事(全冊とも県指定文化財「菅江真澄著作」)

担当：松山 修(真澄)

◇秋田の先覚記念室 企画コーナー展

後藤宙外と書簡 - 「文壇との交流」と「生涯」 -

9月23日(土)～11月26日(日)

<展示概要>

明治元年より150年が経過した今年、秋田ゆかりの先人後藤宙外について展示を実施した。

宙外は明治期の中央文壇で作家や評論家、文芸誌の編集者として活躍した人物であり、本展示は明治期の文豪らとの交流を示す書簡を中心に宙外の生涯について紹介した。平成29年5月に話題となった夏目漱石の書簡についても展示し観覧者より好評を得た。



＜展示構成＞

- 1 生い立ち
- 2 宙外誕生
- 3 宙外上京・学生時代
- 4 小説家、編集者として
- 5 帰郷

なお、本展示の開催にあたり、後藤博泰氏はじめ、美郷町教育委員会、秋田県弘田柵跡調査事務所より御協力をいただいた。

担当：池端広樹（先覚）

◇可変展示

〔自然展示室〕

自然展示室の可変展示コーナーでは、「秋田のカタツムリ」（4月1日～12月12日）、「感じてみよう比べてみよう木の違い」（12月13日～3月30日）の二つの展示を行った。

「秋田のカタツムリ」では、平成28年度に当館に寄贈された川口洋治氏のコレクションから、秋田県産50種、海外産32種の陸貝を展示し種ごとに解説を付した。微小な種もあえて展示したが、意外性があったようで好評であった。

「感じてみよう比べてみよう木の違い」では、6種の樹木のさく葉標本、樹幹、木材を比較展示した。普段は注目しない木々の細部に注目してもらい、ミュージアムトークも好評だった。

担当：梅津一史（生物）

〔ふるさとまつり広場〕

平成29年度は民俗部門と工芸部門による展示を行った。ふるさとまつり広場は展示の導入部分であるという当初の考えに基づき、あまり資料を多く出さないよう心がけた。

来年度以降の内容については、年中行事に関わる資料紹介など季節感のある展示は堅持しつつ、企画展や特別展の付帯事業展示にも使用し、展示についてより興味を持ってもらえるような場としたい。

－平成29年度の展示－

鹿島流し	4月22日(土)～6月9日(金)
七夕絵どうろう	6月10日(土)～8月20日(日)
野良着	9月22日(金)～11月2日(木)
ナマハゲ	11月3日(金)～1月31日(水)
ひな人形・押し絵	2月3日(土)～4月7日(土)

担当：丸谷仁美（民俗）

〔ロビー展示〕

博物館教室「楽しいしぼり染め」第14回作品展

平成29年7月22日～8月20日

博物館教室「楽しいしぼり染め」は、生涯学習の振興と伝統的な絞り染めの技術の保存、伝承を目指し、平成9年度より毎年実施している。作品展は、教室における受講者の意欲の向上や、受講者同士の交流による技術の向上を図るため、平成11年度より開催している。平成29年度は、28年度の教室の受講者127名の作品の中から浴衣をはじめとする90点を展示するとともに、館蔵の関係資料の展示や担当職員と受講者有志による実演も行った。年を追うごとに様々な意匠の作品や技法に工夫を凝らした作品が数多く見られ、受講者はもとより多くの来館者から好評を得ることができた。



◇出張展示、他施設との連携展示

- | | | | |
|--|------------|--|---------------|
| ①「秋田市電にゆられ展」
平成29年4月1日(土)～5月28日(日)
(前年度3月25日(日)から開催)
観覧者：7,278名(前年度分を含むと9,103名) | (秋田県立図書館) | ⑦「まるごと体験!あきたのジオパーク」
8月18日(金)
観覧者：約400名 | (能代市文化会館) |
| ②「東北こけしの世界」
5月20日(土)～6月11日(日)
観覧者：2,353名 | (旧池田氏庭園米蔵) | ⑧「水底の宝石展」
9月28日(木)～11月5日(日)
観覧者：2,076名 | (大潟村干拓博物館) |
| ③「秋田市電にゆられ展 なかいちSpecial」
(秋田県立美術館1F県民ギャラリー)
6月7日(水)～6月13日(火)
観覧者：1,167名 | | ⑨「真崎文庫、菅江真澄 周辺のことから」
9月30日(土)～10月1日(日)
観覧者数：43名 | (大館市立栗森記念図書館) |
| ④「オーストラリアの風変わりな動物たち」
(仙北市田沢湖図書館)
7月15日(土)～8月13日(日)
観覧者：339名 | | ⑩「東北こけしの世界」
11月11日(土)～平成30年1月28日(日)
観覧者：2,398名 | (角館樺細工伝承館) |
| ⑤「風雲 男泣き家電城」
(横手公園展望台(横手城天守閣))
7月21日(金)～8月28日(月)
観覧者：2,899名 | | ⑪「後藤宙外「文壇との交流」と「生涯」」
3月24日(日)～3月31日(土)
(平成30年度5月28日(月)まで開催)
観覧者：815名(平成29年度分のみ) | (県立図書館) |
| ⑥「秋田のチョウとガ」
(白神山地世界遺産センター藤里館)
8月1日(火)～8月31日(木)
観覧者：2,364名 | | | |

▶ 展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、照明・映像・音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。映像・音響機器の不具合が増加しており、機器更新ある

いはメディアの変更が今後の課題である。自然展示室の冒頭剥製・骨格陳列スペースと人文展示室の土器タワーの清掃を実施した。

▶ 解説案内サービス業務

来館者の方々に、親しみある解説活動を実施するために、次の3点の重点項目を設定して解説業務を行った。

- (1) 展示内容の正確な理解と来館者に応じたわかりやすい解説の創意工夫
- (2) 誠意ある対応の実施
- (3) 職員内情報を共有し来館者対応に活かす

日常業務については、研修、勤務割作成、月例会運営、情報資料収集、団体関係、Q&Aを分担した。昨年度に引き続き冬期間にQ&A作成に重点的に取り組んだ。また、9月11日には鳥海山山麓地域で館外研修を行い、解説業務の研鑽を積んだ。

▶ 分館(旧奈良家住宅)

主屋(重要文化財)を平成29年4月1日から平成30年3月31日まで公開した。また附属屋(登録有形文化財)も外観のみ同期間公開した。附属屋については内部公開の希望に応えるために、平成29年9月29日(金)に公開

し、担当学芸職員が解説を行った。なお、9月29日は秋田市金足黒川にある三浦館(重要文化財)の見学もあわせて行った。

4 教育普及活動

人事異動に伴い、博物館教室は平成28年度に比べて減少した。また、受講者数も1,854名と減少したが、中期ビジョンで謳った「未来の学芸員養成講座」を新規に立ち上げ、意欲に富む児童・生徒の参加があった。

また、平成29年度から館外講座を整理・一本化し、普及・広報班でとりまとめを行ったところ、2,959名の受講があったことが把握された。特定の職員に対する依頼の偏りが見られるものの館外講座による普及効果は高いことが分かった。

イベントは例年同様4月下旬に「軒の山吹」再現をアイリスの会の協力を得て実施（134名来館）、7月には昨年まで分館で行っていた夜イベントを特別展「妖怪博覧会」とコラボレーションする形で実施し、240名の来館者に楽しんでいただいた。

博物館等類似施設との連携では、日本博物館協会東北

支部の幹事館として10月下旬に理事会・総会・研修会及び視察研修を仙北市角館で滞りなく実施した。また、秋田県博物館等連絡協議会加盟館の役員会、総会、実務担当者研修会、燻蒸サービスを実施したほか、秋田市文化施設連絡会議（みるかネット）の事業であるギャラリートークセッション等へ参加した。

友の会は予算的に厳しい中、活動内容を検討する時期に来ているが、平成29年度から地質ボランティアが正式に立ち上がり、生物・地質・考古・歴史の各部門へのサポートが行われた。ボランティア「アイリスの会」は皇太子殿下、皇太子妃殿下の行啓に際し、ワラ細工のサポートや学生への指導等に全面的な協力を得た。また、大学生の博物館実務実習や中堅教諭等資質向上研修等に対応した。

普及行事

◇博物館教室

平成29年度の博物館教室は24講座84回1,621名の実績であった（平成28年度は38講座103回2,165人）。

昨年度に比べると講座数で37%、受講者数で25%の減となったが、職員の転出が多いとその分の講座が組めないため、年度による増減が見受けられる。

ここ4年ほどの推移を見ると、平成26年度が21講座1,575名、平成27年度が27講座1,917名、そして平成28年、平成29年と続いており、平成28年度をピークとして、水準としては平成26年度並みに戻ったといえる。

ちなみに、1講座あたりの受講者数は平成28年度59名に対し、平成29年度は68名と健闘しており、講座数の増加によって受講者の増加は見込める状況にある。なお、熊の出没や悪天候により、中止となった講座が3回あった。

◇名誉館長館話

今年度の名誉館長館話は、以下のテーマで行われた。

・前期「秋田と歴史」3回

①5月12日（金）「阿部臣とアキタ」

②6月16日（金）「相染の神」

③7月14日（金）「古代東北の安倍氏と清原氏」

・後期「秋田と先人」3回

④9月15日（金）「安藤昌益私考」

⑤10月13日（金）「古松軒と新右衛門」

⑥11月17日（金）「秋田人信淵」

※最終回は11月10日（金）から期日変更となった。

受講者数は平成28年度212名から233名へと増加した。年6回になった平成27年度（174名）に比しても、2年で33%の増加となっている。春から秋にかけての月1回の館話が定着してきていると思われる。

◇館外講座

平成29年度から県庁出前講座を含む館外講座を、普及・広報班でまとめて把握する形とした。今年度の館外講座は74回あり、2,961名の受講者数であった。内訳は以下のとおり。

①県庁出前講座 8回、376名

②出張講座 33回、1,407名

③出前授業 5回、442名

④連携講座 27回、706名

⑤その他 1回、30名

なお、①県庁出前講座は以下の4テーマで行った。

・博物館の魅力について（普及・広報班） 4回

・博物館資料から考える秋田の原始・古代（考古部門） 0回

・秋田のくらし・行事（民俗部門） 3回

・秋田県の絶滅のおそれのある野生生物（生物部門） 1回

①の受講者は、平成28年度11回495名から、3回179名

が減じているが、県庁出前講座に準ずる旅費なしの館外講座が①の他に9回703名分あった。

また、④の連携講座の連携先は、県立大学と秋田県生涯学習センターである。⑤のその他は、企画展「足もとの久保田城下」の付帯事業の「ブラ★くぼた」という講座である。

	教室名	人数
1	化石と地層の観察会	45
2	釣り教室	75
3	昆虫教室～採集と標本作り～	中止
4	夜の昆虫観察会	15
5	秋田の温泉への誘いー温泉の魅力を知らうー	14
6	博物館周辺の植物観察会	7
7	昆虫同定技術入門	6
8	植物の色をとりだそう	17
9	葉として利用された植物	17
10	真澄に学ぶ教室講読会「秋田の日記を読む」	288
11	楽しいしぼり染めー中級コースー	265
12	楽しいしぼり染めー研究コースー	228
13	妖怪入門講座	45
14	昔の日本史・今の日本史～教科書はこう変わった～	39
15	第1回真澄に学ぶ教室講演会	46
16	三浦館・旧奈良家住宅合同見学会	8
17	古文書整理修復体験教室	10
18	第2回真澄に学ぶ教室講演会	44
19	初めての古文書解説	105
20	秋田の先覚記念室講演会	19
21	ゼロからはじめるワラ仕事	172
22	バックヤードツアー	126
23	くん製教室 初級編	9
24	未来の学芸員養成講座	21
	合計	1,621

	名誉館長館話	人数
前期	秋田と歴史	132
後期	秋田と先人	101
	合計	233

◇その他行事

- ・『軒の山吹』再現 参加者数：134名
4月27日(木)～5月2日(火)



- ・『盆踊りと怪談とバリ舞踊と妖怪展』7月15日(土)
昨年まで分館で行っていた夜イベントを、本館で特別展とコラボレーションする形で実施した。イベントの知名度が上がり、今年は東京からバリ舞踊のダンサーが無償で参加した。終了後、ベリーダンスを踊る方々から来年のイベントに参加させて欲しいという申し出があった。展示室内という狭いスペースでのイベントだったため、広報は控えめにしたが、240名(昨年193名)の来館があり、好評だった。



- ・ミュージアムコンサート「早川泰子の”ジャズで巡る博物館” Vol.1」 3月17日(土)
進駐軍のピアノを使用した恒例のコンサートを今年度は博物館の資料とコラボレーションしながら行った。演奏者が資料から得たインスピレーションをもとに選曲し、職員とトーク・解説を行ってから演奏するというスタイルで実施し、好評を得た。194名の参加があった。



▶ 他施設・他団体との連携

◇日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会
昨年度から2カ年にわたり支部長館(会長館)となり、事務局としての活動を行った。今年度の活動は以下

のとおり。
■10月26日(木) 会場：あきた芸術村(仙北市田沢湖)
(1) 役員会 (13:00～13:45) 参加者：11名

- (2) 総会 (14:00~14:45) 参加者：19名
議案①平成28年度事業報告・収支決算
②平成29年度事業計画・収支予算
③平成29年度監事の選任
- (3) 研修会 (15:00~16:30) 参加者：28名
講演「秋田の博物館史－秋田学から半世紀－」
秋田県文化財保護審議会長・富樫泰時氏
※秋博教の研修会を兼ねる形となる。
- (4) 情報交換会 (18:30~20:30) 参加者：17名
■10月27日(金)
- (5) 視察研修 参加者：25名
①仙北市立角館町平福記念美術館 (9:15~10:00)
②角館歴史村青柳家 (10:15~11:00)
③仙北市立角館樺細工伝承館 (11:15~12:00)
※秋博教の視察研修と兼ねる形となる。

◇秋田県博物館等連絡協議会 (略称：秋博協)

- (1) 役員会、総会 5月30日(火)
会場：大館郷土博物館 (大館市)
総会参加15館23名
- (2) 研修会 本年の研修会は、日本博物館協会東北支部の研修会と合同で行った。
- (3) 実務担当者研修会 2月20日(火)
会場：秋田県立博物館学習室 (18館31名参加)
講演：「地方博物館におけるコレクション管理について～日本とイギリスの事例から考える～」
講師：金山 喜昭 氏
(法政大学 キャリアデザイン学部教授)
- (4) 燻蒸消毒サービス 9月4日(月)~9月11日(月)
7施設が利用
- (5) 秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」
加盟各施設が掲載内容を随時更新した。
- (6) 会報の発行『秋博協だより』第52号

◇博物館「友の会」

予算削減のため、平成28年度までの活動に比べ、活動内容に変更があった。内容は以下のとおり。

- (1) 役員会・総会 4月23日(日) 参加者14・20名
- (2) 企画展展示研修 4月23日(日) 参加者20名
- (3) 秋田学を深める研修1~3
①中世の山城「山根館」の歴史を学ぶ
5月13日(土) 参加者10名
②鳥海山霊峰と吹浦の十六羅漢を訪ねる
7月9日(日) 参加者23名

- ③西馬音内地区の文化と歴史を訪ねる
8月6日(日) 参加者17名
- (4) 県外研修1~2
①三陸海岸の自然と歴史を学ぶ
9月4日(月)~5日(火) 参加者16名
②東京国立博物館探訪
1月20日(土)~21日(日) 参加者16名
- (5) 各ボランティアによる活動
~古文書整理、秋田古文書同好会、植物標本、考古、地質 (今年度より活動)
- (6) 友の会だより 第46号
- (7) 印刷物等配布 年4回

◇博物館ボランティア「アイリスの会」

博物館ボランティア「アイリスの会」は、活動内容によりA・B・C・薫の4チーム編成で活動に取り組んでいる。

Aチームは、わくわくたんけん室での「おはなし会」の実施、講演会等の受付など来館者へのサポートを中心に活動した。

Bチームは、わくわくたんけん室での体験補助を中心に活動し、「裂き織り体験」の補助を充実させた。

Cチームは、図書資料の整理(考古図書も含む)活動、会員通信「時計」の編集・発行、館内壁新聞の編集・掲示、各種研修の企画・運営を行った。

薫チームは、定期的にワラ細工の製作技術研修を実施しながら、博物館教室や学校団体利用のワラ細工体験を支援した。また皇太子殿下、皇太子妃殿下行啓に向けて、金足農業高校生へのワラ細工講習をサポートした。年末にはしめ縄づくり教室を開催した。

全チームによる取り組みとしては、例年の『軒の山吹』再現への支援のほか、イベント「盆踊りとバリ舞踊と怪談と妖怪展」で「夕暮れ呈茶会」を主催し、皇太子殿下、皇太子妃殿下行啓の際にはお見送りに参加した。

会員数：31名 (平成30年3月31日現在)

◇その他団体 (みるかネット等)

秋田市文化施設連絡会議が主催し、5月18日の第16回国際博物館の日にあわせ、県立博物館、県立美術館、秋田城跡歴史資料館、千秋美術館、赤れんが郷土館、佐竹史料館、計6館でギャラリートークを実施した。企画展「足もとの久保田城下」のギャラリートーク(講師：新堀学芸主事)に16名の参加があった。また、イベント通信の発行を例年と同様行った。

博物館における実習・研修

◇博物館実習

平成29年度の博物館実習は、8月13日から19日までの6日間で行い、日本大学、新潟大学、岩手大学、日本女子大学、帝京大学、駒澤大学、帯広畜産大学各1名、米沢女子短期大学、秋田公立美術大各2名の計14名の実習生を対象にして実施した。尚、帯広畜産大学の学生は追加で4日間実習している。

実習は、講義形式で博物館に関する事を学ぶものと、体験実習形式で、資料を取り扱ったり、博物館の事業や業務を体験する実務的なものの二つに分かれて行った。

◇中堅教諭等資質向上研修

五城目高等学校と新屋高等学校から教諭2名が当館の研修を選択した。日程は8月16日(水)～18日(金)の3日間であった。

研修内容は、1日目が展示室案内・展示調査体験、2日目がわくわくたんけん室体験、3日目が博物館実習に同席して資料取り扱い体験・分館(旧奈良家住宅)案内・考古ボランティア体験であった。

この研修で得られた博物館での経験が今後の職場で活かされることを願っている。

博物館活動の記録・整理

◇博物館活動の記録・整理

博物館活動については新聞、雑誌等による140件を超える記事掲載があり、県内外に当館の博物館活動が広く伝えられた。掲載記事は記録集にまとめ、館職員が常時利用できるようにするとともに、年に2回行われる博物館協議会において委員各位に配付した。また、ウェブサイト上に各種団体やサークル等が、博物館で開催されるイベント等を紹介する機会も徐々に増えてきた。掲載希望団体とURLを記録し、今後の広報活動に活用していく必要がある。

博物館活動を広く伝える媒体である新聞や雑誌等をは

じめ、マスコミに対しての情報提供の内容や時期等について検証し、利用者増につながる広報活動により、当館の魅力を一層広めていきたい。

◇レファレンス

博物館では、所蔵する資料や秋田の文化や自然などに関する質問を受けている。平成29年度の県内外からの各部門等に対しての問い合わせ件数は次の通りである。考古10件、歴史12件、民俗16件、工芸5件、生物14件、地質27件、真澄1件、先覚4件、その他4件

5 広報出版活動

展示やイベントに関するポスターやチラシについては、内容に合わせて配布計画を検討し、関連団体や学校等に重点的に配布した。ポスター・チラシの宣伝効果が大きいことが分かったので、訴求力や正確性に留意したデザインと内容に工夫を行った。

マスコミ・地元情報誌等に関するプレスリリースや情報提供は、展示・イベントにあわせて時機を逸することなく、積極的に行い、特に特別展については秋田魁新報

で連載を行った。

ホームページは、利用者の立場に立った魅力的なコンテンツを提供することに努め、展示・イベント等にあわせて掲載情報を更新した。フェイスブックは、担当の人事異動によって更新の頻度が減少したが、リーチ数は順調に伸び、現在は1投稿につき3,000以上のリーチ数を超えるものも珍しくなくなった。無料の広報ツールとしてはまずまずの効果を上げていると思われる。

広報活動

◇広報計画の策定と実施

広報は特別展・企画展の開催および燻蒸消毒に伴う休館の周知に合わせて年5回の定期発送の計画を策定した。この定期発送では、各展示のポスター・チラシのほか当館が発行した各広報誌やイベント情報等の印刷物を、県内の学校、図書館、公民館などの公共施設や県内外の博

物館、道の駅などの観光施設等に発送し、掲示を依頼した。

また、定期発送は展示の情報が事前に周知されるよう、展示開始の1ヶ月前を目処に発送時期を設定した。ポスター等の納期にあわせた準備や各担当者からの協力もあり、概ね予定通りの発送を行うことができた。

◇その他の広報活動の実施と改善

特別展「妖怪展」については、定期発送のチラシ類を送付する際、特に道の駅や観光施設への配布分を増やして集客を狙った。他の企画展についても、展示内容に関係する団体や資料借用などで協力を依頼した施設等をチラシ類の配布先へ追加し、情報の周知を図った。また一部の展示では、県内地方紙で展示紹介の連載記事を掲載してもらった。

展示やイベントの情報提供については、各報道機関が所属する県庁記者クラブへのプレスリリースを20回行い、企画展・特別展をはじめとして、企画コーナー展や

各種イベントなどにも多くの取材があり、新聞等で紹介された。また、教育委員会広報誌「教育あきた」、秋田県広報紙「あきたびじょん」、秋田県の公式サイト「美の国あきたネット」等への掲載を積極的に働きかけ、博物館の情報に周知に努めた。

広報は集客に直結するものであり、予算の範囲内で広く周知することができる工夫している。また、多くの県民に博物館の活動内容を理解してもらう機会でもあるため、興味・関心をひくような、より効果的な広報について今後も工夫と改善を図り、博物館の認知度を大きく高めるような業務を進めたい。

▶ 出版物の刊行・配布

◇展示ポスター

企画展「足もとの久保田城下」	B 2判	1,200部
特別展「妖怪博覧会」	B 2判	1,200部
企画展「鳥海山の自然史」	B 2判	1,200部
企画展「植物を編む」	B 2判	1,200部

◇展示広報チラシ

企画展「足もとの久保田城下」	A 4判	20,000部
特別展「妖怪博覧会」	A 4判	43,000部
企画展「鳥海山の自然史」	A 4判	20,000部
企画展「植物を編む」	A 4判	20,000部

◇展示図録

特別展「妖怪博覧会」	A 4判	100頁	600部
------------	------	------	------

◇展示解説資料

秋田の先覚記念室企画コーナー展「後藤宙外と書簡」	A 4判	8頁	1,000部
--------------------------	------	----	--------

ロビー展示「楽しいしぼり染め第14回作品展」

A 4判	8頁	2,000部
------	----	--------

◇広報誌

博物館ニュースNo.165・166

A 4判	8頁	各2,300部
------	----	---------

広報紙「真澄」No.35

A 4判	8頁	1,500部
------	----	--------

◇報告書等

年報 平成29年度	A 4判	45頁	1,000部
秋田県立博物館研究報告第43号	A 4判	62頁	600部

真澄研究 第22号	A 5判	100頁	500部
-----------	------	------	------

▶ インターネット利用

平成29年度のホームページへのアクセス数は約5万回で、ここ数年は5万5千回前後で推移している。閲覧状況の記録から、トップページや企画展のページがよく閲覧されていることがわかった。トップページに設置したイベントカレンダーも随時を更新して、告知を十分に行うとともに、フェイスブックも適宜更新して話題や情報

を提供している。

電子メールについては、県内外からの様々な問い合わせや教室の申し込みなどがあり、担当者が定期的にチェックして対応している。また、外部とのデータのやり取りで使用頻度が上がってきている。

6 学習振興活動

学習振興活動では、体験型展示室「わくわくたんけん室」の運営とセカンドスクールの利用の促進・支援の2

つの柱からなる。また、教員長期社会体験研修の受け入れや職場体験、高校生インターンシップについても学習

振興班が中心的な役割を果たした。

わくわくたんけん室では、学習体験のための道具が入った「宝箱」約80個ほどを室内の棚に配置し、子どもたちが自由に利用できる環境をつくっている。この体験は郷土秋田の自然や文化に触れ、楽しく学ぶことを目的にしている。また、秋田の昔話ぬり絵やオリジナルのペーパークラフトも新たに追加した。平成29年度は常設展示や企画展・特別展と連携し、お面ぬり絵など新工作アイテムも開発し来館者の増加に努めた。

▶ わくわくたんけん室の運営

◇室内環境の整備（一般及び団体利用）

わくわくたんけん室は、お盆やお正月の繁忙期はもとより、平日でも若い年代の親子連れの来館目的の1つになっている。また、常設展や企画展との連携の観点からもわくわくたんけん室の運営は重要性が高く、室内環境の整備は不可欠である。

わくわくたんけん室の入口や室内に年間予定や季節イベントの情報をフルカラーで掲示することで有効な告知となり、来館者の計画的な取り込みや利用者の来室回数の増加につなげることができた。また、工作作業中の事故やケガの注意喚起用パネルを適切に配置することで事故防止や予防につなげることができた。そのため今年度は大きな事故やトラブルも無く運営することができた。

わくわくたんけん室が他展示室と連携することは、館全体としての来館者数を伸ばし、他の展示室へ立ち寄るきっかけになっている。今後も新たなイベントや企画を実施し新アイテムの開発やミニ展示コーナーの開設によってあらゆる年代の来館者の取り込みにつなげていきたい。



◇室内・体験アイテムの改善・開発

わくわくたんけん室のコンセプトは、体験しながら学ぶことである。普段の生活ではあまり馴染みがなかった、あるいは初めて体験したという来館者も多い。たと

学校団体のセカンドスクールの利用については、博物館の常設展示の見学もさながら別館旧奈良家住宅の見学と共に「昔の道具」の体験学習の要望が増えた。セカンドスクールの利用の人数については、小学校や中学校の統廃合による影響や児童生徒数の減少などもあるが29年は5年ぶりに8千人を超えた。今後も教育施設として連携し更なる学校利用の獲得や体験活動の充実に努めていきたい。

えば、石臼体験である。楽しそうにやっている我が子の姿をみているうちに、力加減や回す速さに興味をもち、子供と交代で石臼を引く親子連れの姿をたくさん見ることができた。昔のくらしや遊びについて話が弾むことも多かった。取り扱い方や安全確認はもちろん、来館者とコミュニケーションにも努めた。

空気砲やけん玉、パズルなどのアイテムは、人気が高く使用頻度も多かったので、消耗した部分を補修したり、交換したりした。また、必要な工作材料の在庫確認や補充も適宜行い、利用者が安心して体験できるよう努めた。

工作アイテムや材料の補充、色鉛筆削りなどの環境整備や改善、道具の安全確認は、開館前と閉館後に毎日複数人で行った。このことが、1年間のわくわくたんけん室の円滑な運営につながったといえる。今後も来館者の快適な利用のため、安全対策や環境整備を整えていきたい。

◇季節アイテム、イベント

わくわくたんけん室では、月ごとや季節に合わせてアイテムを変えたり、イベントを行ったりした。楽しみながらの体験を通して「秋田を学べる」ということで、幼児や小学生連れの親子連れはもちろん、高齢者の方たちにも、たくさん利用して頂いている。

平成29年度は、「たたみ染め・レプリカ製作」「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ!」、「貝標本・貝のマグネットづくり」、「ミニ門松・しめ縄づくり」、「木の実アート」の全5種類のイベントを行った。特に「ミニ門松・しめ縄づくり」と「木の実アート」は、大人にも人気で、平日の閑散時期を選んでじっくり取り組まれる方も多数見られた。また、準備された材料の形状の違いや採取場所について熱心に質問されるなど興味が高まっていく様子が見られたことは、大きな収穫だった。

今回で14回をむかえた「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ!」は、問題消費数は、昨年度と大きな差はないが、実施人数は、春と秋を合わせて1,069人と頭打ち状態になっている。開催時期の検討、フェイスブック等での紹介などの広報面に力を入れること、そして何よりも、ミッションの問題の精選をして、博物館の各展示室と来館者の距離を縮めていきたい。

◇出張わくわくたんけん室

- | | |
|----------------|----------|
| ①自然科学学習館（アルヴェ） | 7月17日(月) |
| たたみ染め・コマ作り | (職員2名) |
| ②自然科学学習館（アルヴェ） | 10月9日(月) |
| たたみ染め | (職員2名) |

博物館における研修・実習

◇セカンドスクールの利用

利用状況は、平成28年度と比較すると、全体として学校数は減少したが、利用人数は増加した。また、秋田市や県南からの利用が減少したものの、県北からの利用は増加した。以下、各校種とも平成28年度と比較する。

幼稚園・保育所については、最近数年は雨天時のみの利用を申し込んだものの、結果的に晴天のため来館しない学校が多かったが、平成29年度は1件にとどまった。これにともない、年間を通しての学校数・利用人数はともに増加した。

小学校・中学校・特別支援学校については、学校数は減少したが、利用人数は増加した。学校数の減少は、特に小学校については統廃合が進んでいることが背景にあることも一因と考えられる。

高等学校については、学校数・利用人数ともに減少した。インターンシップ等の利用を増やす方を講じた。

全体としての学校数の減少は、出前授業の件数の減少と合わせ、重要な検討課題である。学校の博物館利用についてよく周知させるとともに、各学校の必要に応じたより一層細やかな配慮ができる体制を今後も整えたい。

	平成29年度		平成28年度		平成27年度	
	学校数	利用人数	学校数	利用人数	学校数	利用人数
幼稚園・保育所	24	1,269	22	887	14	593
小学校	96	4,874	99	4,841	97	4,289
中学校	20	1,238	30	1,058	31	1,673
高等学校	17	553	26	710	23	761
特別支援学校	3	70	5	35	8	124
その他	5	95	2	13	3	91
合計	165	8,099	184	7,544	176	7,531

◇出前授業

平成29年度の出前授業は、小学校4件、高校1件の計5件の申し込みがあった。教員のための博物館の日などで出前授業についての広報を行っているが、まだまだ認知度が低い。行うことができる活動や見ることができる資料に制限はあるが、わざわざ博物館に行かなくても秋

田のことについて様々な側面から、専門的に深く学ぶことができるという、出前授業最大のメリットをどのように普及広報するかが今後の課題といえる。

- | | | |
|----------------|----------|-------|
| 勝平小学校4年(125名) | 秋田の歴史 | 9/26 |
| 勝平小学校4年(125名) | ナマハゲについて | 10/3 |
| 御所野学院高校1年(57名) | 秋田の自然 | 10/14 |
| 外旭川小学校3年(96名) | 昔の暮らし | 12/7 |
| 保戸野小学校3年(39名) | 昔の道具 | 2/8 |

◇職場体験・インターンシップ

当館は、教育施設であることから教育委員会や学校の依頼により、職場体験やインターンシップを受け入れ、博物館の業務や学芸員の職務を体験してもらっている。

平成29年度も中学校3校、高校5校、教育委員会が2件の計10件で実施することができた。仕事内容は展示室での来館者対応の他に、わくわくたんけん室の季節イベントの材料収集や準備、博物館教室で使う材料の準備作業の手伝いなども行った。慣れない作業であったが、作業しながらコツやポイントを見つけ出しながら作業を進め、一人一人が働くことの意義や楽しさを味わうことができた。ただし、休館日と重なった1校については、日程の変更が難しく、実施を断念した。主な実績は次の通りであった。

<職場体験>

- | | |
|---------------|-------------|
| 山王中学校(3名) | 5/25～5/26 |
| 八郎潟中学校(3名) | 8/2 |
| 横手市教育委員会(14名) | 8/10 |
| 潟上市教育委員会(3名) | 10/17～10/19 |
| 秋田北中(1名) | 10/19～10/20 |

<インターンシップ>

- | | |
|-----------|-----------|
| 和洋高校(2名) | 7/26～7/28 |
| 能代高校(2名) | 8/1～8/3 |
| 五城目高校(3名) | 8/23～8/25 |
| 秋田商業(3名) | 9/12～9/14 |
| 男鹿工業(3名) | 9/26～9/28 |

◇教員のための博物館の日

8月3日(木)「教員のための博物館の日」は各学校種、教育機関、国立科学博物館職員など、合わせて20名の先生方に参加頂き、実施した。

午前中は展示解説として、はじめにわくわくたんけん室の概要説明をした。その後、学習室に場所を移動して和紙たたみ染めの製作体験を行い、活動時間や作業の難易度を体感して頂いた。次に分館・旧奈良家住宅において、概要説明と昔の人の暮らしや昔の道具などの授業を行う際に活用できる箇所・ものについての解説を行った。

昼食を挟んだ午後は、当館のセカンドスクールの活動の概要を紹介し、その後、本館展示室内を2つのコースに分かれ、学芸職員の解説の下、見学して頂いた。その後、実験教室に移動し、貸出資料についての説明を各部門ごとに詳しく行い、活用方法などについて紹介した。

今年度から、国立科学博物館が中心となって連携実施している「教員のための博物館の日」に加盟しての実施となった。広報の面はもちろん、ステッカーやペーパークラフトなどの諸アイテムの提供を受け、様々なバックアップをしてもらえる点でメリットがあったと感じている。参加頂いた先生方からも概ね好評であった。次年度以降も継続する予定である。国立科学博物館

をはじめ全国の博物館からの情報を参考にし、より秋田県内の先生方に有意義な情報を提供できる場となるよう工夫していきたいと考えている。

◇教員長期社会体験研修

平成29年度教員長期社会体験研修は学習振興班が担当となり研修を実施した。平成28年度は一年間を通しての研修であったが、平成29年度の研修は、6ヵ月間の実施期間の研修となった。前期(4月～9月)は小学校教諭1名、後期(10月～3月)は中学校教諭1名の受け入れとなった。一年を通しての教員研修とは異なり、秋田県教育研究発表会の発表については免除となった。

○前期研修(4月～9月)

- ・越前純(秋田市立飯島南小学校教諭)
- ・研修テーマ

「博物館の魅力が低学年の子どもたちに伝えるための手立てについて」～自然展示室資料カルタの作成を通して～

○後期研修(10月～3月)

- ・伊藤覚(五城目町立五城目第一中学校教諭)
- ・研修テーマ

「真澄とアニミズム」～デジタル画像の教材の作成を通して～

7 館外活動

◇執筆(著書・論文など、「研究報告第43号」は除く)

松山 修	「秋田県と菅江真澄」(『月刊俳句界』) 「魅力あふれる真崎文庫」(北鹿新聞、 H29.9.24付紙面)
梅津 一史	「東北地方のキタクロヤガ <i>Euxoa nigricans ishidae</i> Matsumura, 1926 につ いて」(蛾類通信 No. 283)
畑中 康博	「故郷からの手紙」(『楽園』平成29年4 月) 「すっぽんが食べたい」(『楽園』平成29 年6月) 「まずは清涼感をどうぞ」(『楽園』平成 29年8月) 「それでは戦争の話をしましょう」(『楽 園』平成29年10月) 「守屋造酒進 平田門人となる」(『楽園』 平成29年12月) 「渋江和光の小言」(『楽園』平成30年2月)

◇講演、講座など

高橋 正	「秋田の有形民俗文化財ーモノの声をき くー」(あきたスマートカレッジ「あき たふるさと講座 あきたの民俗・文化」)
丸谷 仁美	「民俗学の基礎知識」(あきたスマートカ レッジ「まなびスタート講座 民俗基礎 講座」) 「祭り・行事の基礎知識」(同上) 「秋田の民俗」(同上) 「妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合! ～」(あきたスマートカレッジ連携講座 「発見!ミュージアムゼミ」)
船木 信一	「クニマスやクマガラ等にみる秋田の代 表的な環境と生き物」(能代市中央公民 館「知っ得講座」)
松山 修	「真崎文庫と真澄」(菅江真澄研究会学 習会) 「菅江真澄が見た秋田～秋田城下の真澄」 (あきたスマートカレッジ「あきたふる さと講座 あきたの民俗・文化」)

梅津 一史	「紀行家・菅江真澄の記録と読み方」(東京学芸大学フォーラム) 「北限のウラギンシジミその後」(日本鱗翅学会第64回大会) 「秋田県版レッドリスト改訂に関わる調査から見えてきた現状」(日本鱗翅学会第64回大会)
新堀 道生	「足もとの久保田城下～掘り出された武家の暮らし～」(あきたスマートカレッジ連携講座「発見!ミュージアムゼミ」)
畑中 康博	「幕末秋田藩に見る外圧とその対応」(秋田県文化財保護協会能代支部) 「畑中康博の古文書的こころ」(秋田史跡を学ぶ会) 「嘉永6年 領外追放後の守屋左源司」(前田公民館) 「記録から見た秋田藩戊辰戦争」(横手郷土史研究会) 「軍事改革を阻んだ武家の論理」(秋田市観光案内人の会) 「秋田藩戊辰戦争について」(秋田市西部市民サービスセンター) 「秋田藩戊辰戦争の実像」(飯島塾) 「秋田藩戊辰戦争150年の視角」(秋田県文化財保護協会城下支部) 「秋田藩戊辰戦争と横手」(大森町郷土研究会) 「149年前の戦争」(神岡町嶽友館) 「150年前の戦争ーにかほ市と戊辰戦争ー」(にかほ市郷土市民講座) 「秋田藩戊辰戦争の論理」(秋田歴史研究会) 「150年前の戦争ー古文書から見た秋田藩戊辰戦争ー」(西部地域住民自治協議会) 「古文書に見る江戸の重大事件と秋田藩」(秋田おもと高齢者大学) 「秋田藩から秋田県へ」(あきたスマートカレッジ「あきた教養講座 歴史リレー講座～秋田の通史～」) 「20世紀の秋田」(同上)
鈴木 秀一	「鳥海山の自然史」(あきたスマートカレッジ連携講座「発見!ミュージアムゼミ」) 「鳥海山の自然史」(にかほ市郷土史市民講座)
斉藤 洋子	「植物を編む」(あきたスマートカレッジ連携講座「発見!ミュージアムゼミ」)

浅利絵里子	「石川理紀之助翁と民俗」(石川理紀之助翁顕彰会) 「モノでみる秋田の葉あれこれ～企画展秋田の葉今昔物語～」より～(秋田中央公民館講座) 「モノでみる秋田の葉あれこれ in 楢山」(楢山コミュニティセンター講座) 「モノでみる秋田の葉あれこれ in 八橋」(八橋コミュニティセンター講座) 「モノでみる秋田の葉あれこれ～皆で掘り起こす郷土の知恵～」(秋田美術大学) 「五城目町を博物館にたとえたら」(秋田美術大学アキビプラス)
-------	---

◇委員委嘱

新野 直吉	史跡弘田柵跡調査指導研究委員(委員長) 秋田城跡整備委員会委員(委員長) 史跡秋田城跡保存管理計画策定指導委員会委員(会長) 後三年合戦(役)等関連遺跡整備指導委員会特別委員 秋田大学附属中学校評議委員 由理柵・駅家研究会顧問
高橋 正	横手市文化財保護審議会委員 鳥海山北麓の獅子舞番楽調査委員 百宅地区の記録保存委員会委員
丸谷 仁美	横手市文化財保護審議会委員 鳥海山北麓の獅子舞番楽調査委員 日本民具学会評議員
船木 信一	大潟村干拓博物館博物館協議委員 秋田市自然環境保全アドバイザー
梅津 一史	国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー 秋田県版レッドデータブック改訂検討委員会委員 日本鱗翅学会評議員
畑中 康博	大仙市アーカイブズ運営審議会委員(副委員長)



資

料

I 収蔵資料の概要

収蔵資料総数 (平成30年4月1日現在)

総集	美術	工芸	歴史	考古	民俗	生物	地質	先覚	真澄	計
3,698	450	13,712	8,757	2,640	10,183	120,972	17,004	5,249	2,210	184,875

文化財指定物件一覧 (館蔵資料)

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第6号	紙本着色 秋田風俗絵巻	1巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財 (絵画)
県	工芸	工芸第40号	刀 銘出羽住忠秀刻印	1口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第34号	鐺 壇溪図	1枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第53号	短刀 銘天野藤原高真作 元治元年吉日	1口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第63号	魚藻文沈金手箱	1合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第62号	鐺 (あやめ図透彫) 銘 出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	1枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第67号	刀 銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	1口	平成 4. 4.10	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第66号	秋田家資料 (刀剣類ほか)	1括	平成11. 3.12	県指定有形文化財 (工芸)
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保 字狐森出土	1口	昭和53. 6.15	重要文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 (枯草坂古墳出土)	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器 (沢田遺跡出土)	1点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品 (青磁碗他)	1括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財 (考古資料)
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内 上掬出土	4箇	昭和63. 6. 6	重要文化財 (考古資料)
県	歴史	歴史資料第6号	久保田城下絵図	1幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	歴史資料第7号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	書跡典籍第10号	平田篤胤竹画讃	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第11号	平田篤胤書簡	1巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第12号	平田篤胤和魂漢才	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第17号	手柄岡持 (朋誠堂喜三二) 自筆作品並びに関係資料 (江都前後赤壁)	1点	平成30. 3.16	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	1棟	昭和40. 5.29	重要文化財 (建造物)
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田柚子造材之画	1点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物	5-3-0001	田沢湖のクニマス (標本)	1点	平成20. 7.28	登録記念物

II 歴代館長、特別展等一覧

▶ 名誉館長

新野直吉	平成12年4月～
------	----------

▶ 歴代館長

佐藤文夫	昭和50年5月～昭和52年3月
加賀谷辰雄	昭和52年4月～昭和53年3月
奈良修介	昭和53年4月～昭和58年3月
畠山芳郎	昭和58年4月～昭和63年12月
斉藤長	昭和64年1月～平成元年3月
佐藤巖	平成元年4月～平成3年8月
橋本顕信	平成3年9月～平成4年3月
近藤貢太郎	平成4年4月～平成7年3月
高橋彰三郎	平成7年4月～平成9年3月
新野直吉	平成9年4月～平成12年3月
富樫泰時	平成12年4月～平成15年3月

佐々田亨三	平成15年4月～平成17年6月
三浦憲一	平成17年6月～平成18年3月
沢井範夫	平成18年4月～平成20年3月
佐々木義幸	平成20年4月～平成21年3月
鈴木幸一	平成21年4月～平成22年3月
荒川恭嗣	平成22年4月～平成23年3月
神馬洋	平成23年4月～平成25年3月
風登森一	平成25年4月～平成27年3月
佐々木人美	平成27年4月～平成29年3月
山口多加志	平成29年4月～平成30年3月
山田浩充	平成30年4月～

▶ 特別展等一覧

昭和53年1月	地域展	伝説の里鹿角
7月	特別展	(東京国立博物館巡回展) 日本の美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年1月	地域展	鳥海山麓－山と人－
7月	特別展	日本の時代服飾
56年9月	東北展	東北の仮面
58年1月	地域展	平鹿－水とくらし－
7月	特別展	はにわ
59年5月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 －川と山のくらし－
61年7月	特別展	世界の貝
62年6月	東北展	出羽の近世大名
63年5月	特別展	神々のかたち－仮面と神像－
平成元年6月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
2年7月	特別展	日本のやきもの
3年4月	特別展	世界の昆虫
4年7月	特別展	近世美術の華
5年4月	特別展	鳥ってなあに
6年4月	特別展	北方文化のかたち
7年4月	特別展	地球を見つめる小さな眼
8年10月	特別展	ラ・ビレット －科学の遊園地－

平成9年11月	特別展	日本のわざと美
10年4月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年4月	特別展	おもちゃ
12年10月	特別展	(国立博物館美術館巡回展) 信仰と美術
16年9月	特別展	オリエント文化展
10月	北東北三県共同展	描かれた北東北
17年7月	特別展	いきもの図鑑 ～牧野四子吉の世界～
18年9月	特別展	熊野信仰と東北 ～名宝でたどる祈りの歴史～
19年7月	北東北三県共同展	北東北自然史博物館
20年7月	特別展	昆虫の惑星
21年4月	特別展	白岩焼
22年5月	北東北三県共同展	境界に生きた人々
23年7月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年9月	特別展	アンダー×ワンダー！ －北東北の考古学最前線－
25年7月	特別展	あきた大鉄道展
26年9月	特別展	菅江真澄、旅のまなざし
27年9月	特別展	徳川将軍家と東北
28年9月	特別展	発掘された日本列島2016
29年7月	特別展	妖怪博覧会 ～秋田にモノノケ大集合！～

Ⅲ 秋田県立博物館条例

(昭和50年3月12日公布
昭和50年5月1日施行
平成24年4月1日最終改正)

(設置)

第1条 郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館(以下「博物館」という。)を秋田市金足嶋崎字後山52番地に設置する。

(職員)

第2条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(博物館協議会)

第3条 博物館に秋田県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 博物館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(入場料等の徴収)

第4条 博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

2 前項の入館料の額は、別表第1に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

3 地方自治法(昭和22年法律第67号)第238条の4第7項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第2に定めるところにより使用料を徴収する。

(入館料等の減免)

第5条 知事は、特別な理由があると認めるときは、入館料又は使用料を減免することができる。

(入館料等の不還付)

第6条 既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

(施行規定)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第1(第4条関係)

入館料の上限額

区 分	金 額	
	個 人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	1人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	1人につき 320円
一 般	600円	1人につき 480円

別表第2(第4条関係)

区 分	金 額
講 堂	1 日 11,700円
	半 日 5,850円
学 習 室	1 日 3,500円
	半 日 1,750円

IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

◎ 秋田県教育委員会行政組織規則

第26条 秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 博物館事業の企画運営に関すること。
- 二 資料の収集、保管及び展示に関すること。
- 三 資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。
- 四 資料の解説及び広報活動に関すること。
- 五 秋田県立博物館協議会に関すること。

◎ 教育機関の管理及び運営に関する規則

第9章 博物館

（開館時間）

第38条 秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期 間	時 間
4月1日から10月31日まで	午前9時30分から午後4時30分まで
11月1日から3月31日まで	午前9時30分から午後4時まで

（休館日）

第39条 博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 月曜日（当該日が休日又は8月29日に当たるときは、その翌日）
- 二 年始（1月1日から1月3日まで）
- 三 年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条 講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 第11条第2項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

V 入館者に関する資料

(1) 入館者数内訳

平成28年度

総入館者数 107,323人

有料展示

発掘された日本列島2016

平成29年度

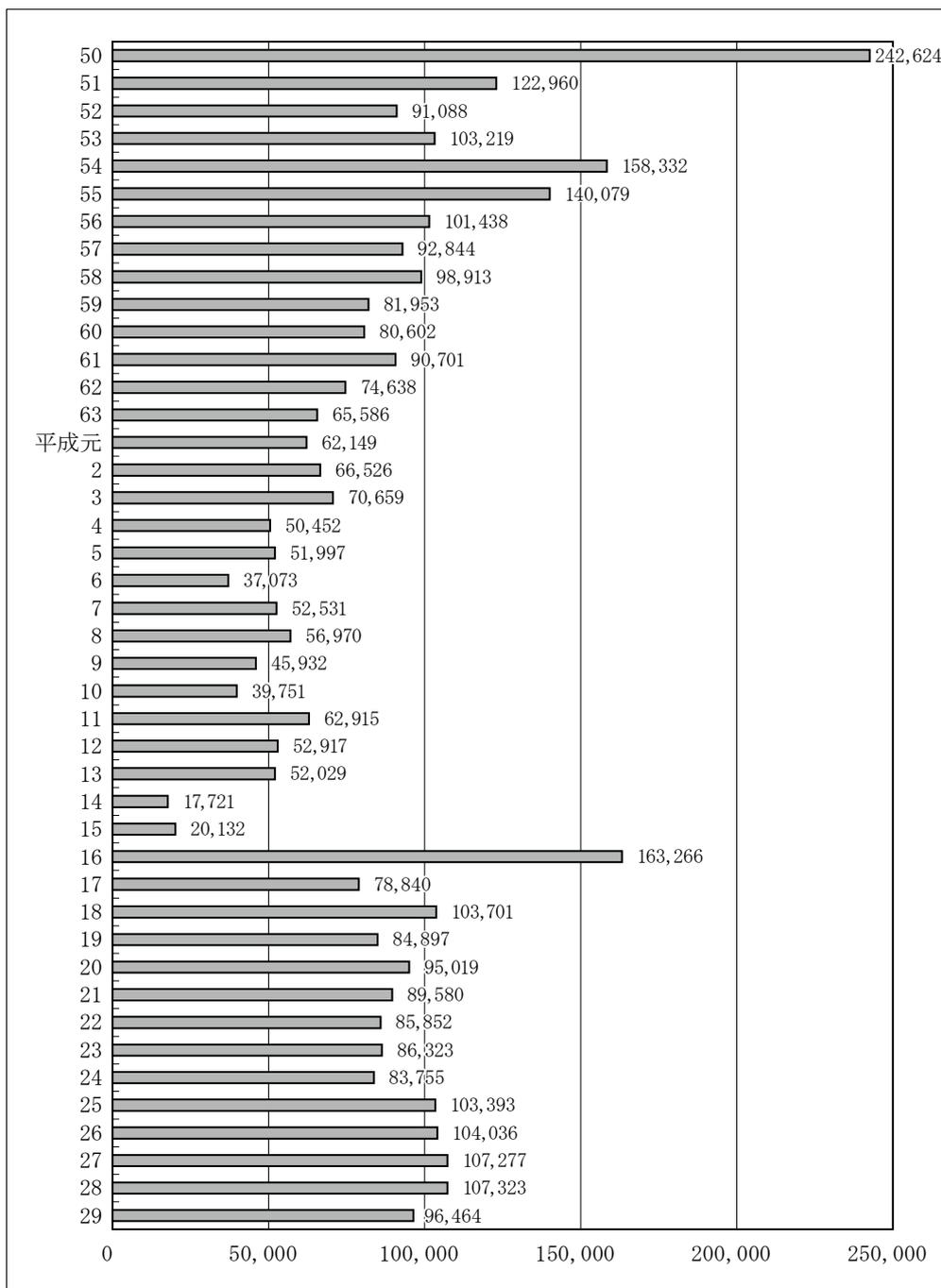
総入館者数 96,464人

有料展示

妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！～

(2) 年度別入館者数の推移

延べ入館者数 3,674,457人（平成29年度末）



※平成14・15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

～利用案内～

開館時間 4月～10月 午前9時30分～午後4時30分
11月～3月 午前9時30分～午後4時

休館日 ・月曜日
(ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日)
・年末年始
(12月28日～1月3日)
・燻蒸消毒の期間
平成30年度は9月3日(月)～9月10日(月)

入館料

通常料金 無料
平成11年4月1日から、博物館の入館料が無料になりました(本館・分館とも)。
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使用料

区分	金額
講堂	1日 11,700円
	半日 5,850円
学習室	1日 3,500円
	半日 1,750円

～交通案内～



本館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分
車：秋田自動車道昭和男鹿半島 I C より10分、秋田北 I C より15分
秋田市中心部から国道7号で約15km・30分

分館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩35分
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

秋田県立博物館年報

平成30年6月発行
〒010-0124
秋田市金足鳩崎字後山52
秋田県立博物館
TEL 018-873-4121
FAX 018-873-4123